

幼 兒 教 育

第 三 十 三 卷 九 月 號 第 九 號



日 南 幼 稚 園 協 會
東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

東京美術
學校教授

小林萬吾・中村亮平共著

菊判全一冊洋綴原色版圖四葉コロタイプ
四葉、定價金三圓三十錢、送料金十八錢

新刊

參考世界美術讀本

西洋篇

美術の鑑賞と教育の關係
殿堂は育の鑑賞に據りは育の鑑賞に據り、開りは育の鑑賞に據り、漸るく書大賞

人類文化の一面を燦かに彩れる美術の鑑賞が教育の情操各方面に寄與する効果は實に偉大なものである。併し美術の殿堂は廣くして深く其の全般に直ちに窺ひ得ず。之れが好個の手引は萬人の期待する所である。本書は此目的に於て、古代、西班、牙アルタミラの洞窟壁畫の原始美術から埃及、メソポタミア、希臘、羅馬初期キリスト教。ゴシックの各時代を經てルネッサンスに至り、代表的畫家、彫刻家等百數十名を挙げ、近代及現代の思潮を述べ、次々其の作風、傾向、傳記、代表等を系統的に明白に、興味深く紹介する。教育家の乞必讀。

新刊 學校家庭圖書描のき方 **基本と其の集**
菊判全一冊洋綴 定價二圓五十錢 送料十八錢

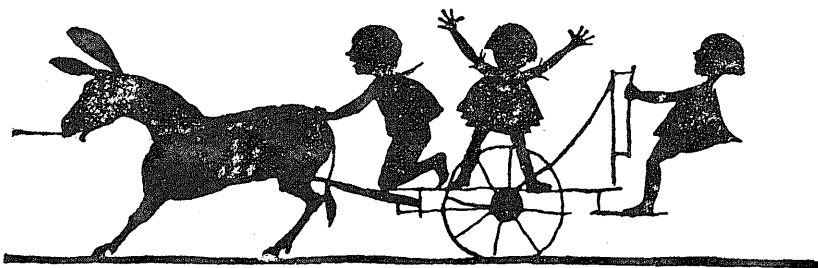
三版 學校家庭圖書描のき方 **應用略畫集と其の方**
菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢

六版 學校家庭圖書描のき方 **クレヨン畫集と其の方**
菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢

五版 學校家庭圖書描のき方 **應用圖案畫集と其の方**
菊判全一冊洋綴 定價三圓八十錢 送料十八錢

新刊 學校家庭圖書描のき方 **萬有圖畫全集と其の方**
菊判全一冊洋綴 定價四圓八十錢 送料二十七錢

發行所 東京市牛車橋一丁目四區 中野區 文庫館書店 電話 東京三番 牛車橋四番 電話 東京三番



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 堀 七 藏
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催
- 一、雜誌發行（毎月一回）
-
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推成スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シテ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、トアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ズ



第 三 十 三 卷 幼 兒 教 育 第 九 號

—(次 目)—

口 繪

遊 園 林 間

汽 車 ほ っ ぽ

幼 兒 の 運 動 遊 戲 (四) 堀 七 藏 (二)

農 繁 期 託 兒 所 の 普 及 倉 橋 惣 三 (二)

農 繁 期 託 兒 所 の 實 際 奈 良 縣 磯 城 郡 多 武 峯 村 栗 原 農 繁 期 託 兒 所 (一 三)

滋 賀 縣 老 蘇 村 農 繁 期 託 兒 所 (一 七)

佐 賀 縣 三 養 基 郡 麓 村 立 石 無 料 託 兒 所 (一 三)

岡 山 縣 眞 庭 郡 河 内 村 農 繁 期 託 兒 所 (一 五)

大 阪 府 豐 能 郡 萱 野 農 繁 期 託 兒 所 (一 六)

歐 米 幼 稚 園 の 實 際 宇 佐 美 ケ イ (一 四)

こ の 夏 倉 橋 惣 三 (一 四)

夏 の 幼 稚 園 所 感 檜 山 京 (一 六)

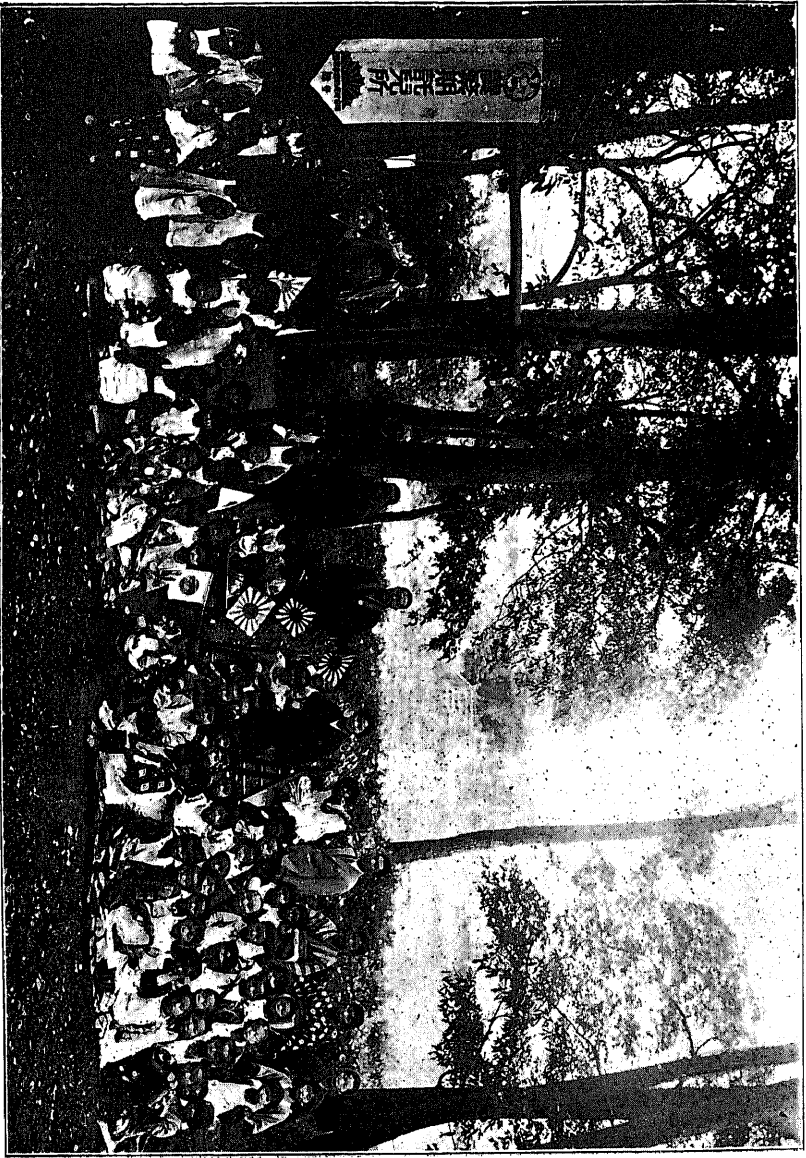
大 自 然 の 乳 房 か ら 水 谷 年 恵 子 (一 六)

日 比 谷 公 園 に 於 け る 東 京 番 町 幼 稚 園 暑 中 休 み 中 の 園 外 保 育 を 見 て 氏 原 銀 (一 七)

が き り 七 匹 の 小 山 羊 及 川 ふ み (一 七)

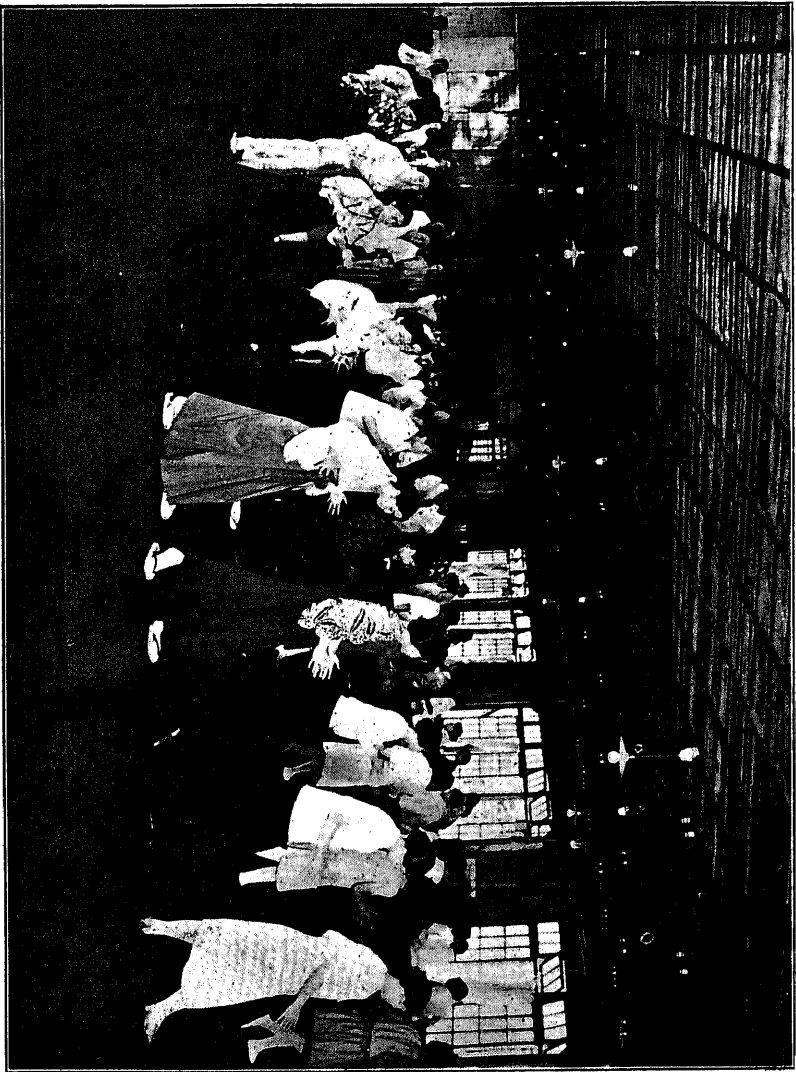
話 童 赤 い 浮 袋 小 野 直 (一 九)

サ ル ビ ヤ 大 岩 金 (一 三)



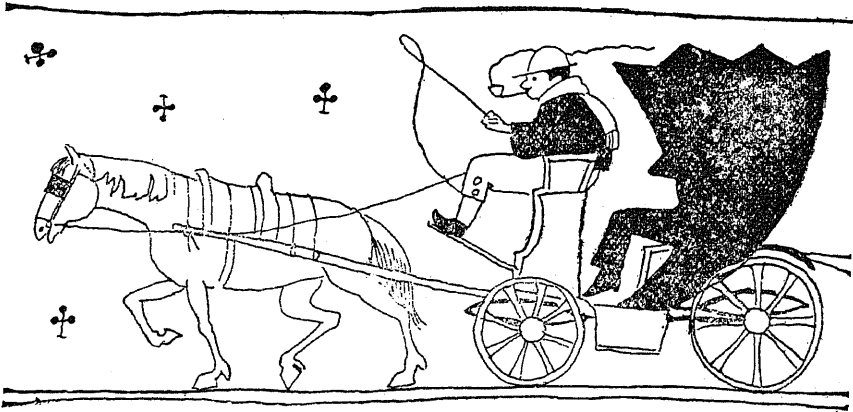
遊園林間

滋賀縣老蘇村農繁期節兒所



汽 車 倶 楽 部

(本會主催遊藝講習會の實況)



號九第 育教の兒幼 卷十三第

月九年五和昭

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼児の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼児の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼児の教育は幼児の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

幼児の運動遊戯 (四)

堀 七 藏

既に述べた如く幼児の生活は悉く遊戯である。幼児の生活は即ち遊びで、幼児の遊びは直に幼児の生活である。それで幼児の遊びを指導することはとりもなほさず幼児の生活を指導することになる。幼児を保育することは専ら幼児の生活即ち幼児の遊びを適當に指導することであるといつてもよい。

既に述べた如く幼稚園時代の健康児は男女共に身長が増加が著しく、體重及び胸圍の増加は比較的に少いから、大變スマートになる。今まで丸々と肥滿してゐた兒が、一體にほつそりとなり、すらりと大きくなるものである。そしてこの時期の幼児は間斷なく遊び戯れる。よい遊び仲間があれば、食事も忘れて遊び、暫くもじつとしてゐない。これは運動欲が漸く現はれたるもので、以前の過多なる體脂肪は漸次に減量し、身體の成長と骨格の強固と旺盛な元氣と抵抗力の増大とを要求することを示すものである。故に幼児は日光と新鮮なる大氣中に於て走り廻り、遊び興ずるものである。大人から見れば、こんな暑いのにどうして汗だくで遊んでゐるのであらうと、驚かれる位である。尤も幼児は一生懸命で遊び

遊びに夢中でも、疲れると自然に休み、一つ動作をたび／＼繰返すことなく、次から次にと動作の轉換をしてゐるから、左程疲勞することも無い。この時代の幼児には、眞夏の炎天に長く外遊びを強要することは無理であるが、出来るだけ外遊びをさせるがよい。「暑いから外に出てはいけません。室内で玩具で遊ばさい。積木をしてゐらっしゃい。晝をかいてゐらっしゃい」などと注文するのはよくない。幼児が外遊びを喜んでしてゐる間は強いて、それを止める必要はない。新鮮なる空氣と日光とに浴して、思ふ存分筋肉を働かして、いろ／＼の遊びをなす位、幼児の發達に重要なことはない。砂遊びでもすべり臺でも、石段をのぼることでも、またブランコ遊びでも、幼児の好む簡単な遊びをなさしめるがよい。幼児のすきな遊びをさせるときは呼吸をふかくし血行を旺ならしめ、軀幹其他の筋肉をよく活動せしめて幼児は益強健に發達するものである。「あれもいけない。これもあぶない」で、幼児の自由な愉快な遊びを制限することは甚だ面白くない。幼児がその身體精神の全力をあげて、出来るだけの動作をするのであるから、決して危険ではない。たま／＼危険なやうな動作をしても、それを抑制してはならぬ。その動作に全精神を集注し、全身體を使つて行ふのである。大人は危険なことが起らないやうに監督し、保護すればよい。「そんな砂利のところを走つてはいけません。そんな高い石段をのぼるとあぶない、あぶない、いけない」で、幼児の遊びを制限する老婆心を轉じて、危険の起らないやうに注意し指導するがよい。砂利のところを走るもよい。高い石段をのぼり下りするもよい。幼児のなすが儘に、實行させるがよ

い。このとき保母は危険の起らないやう、幼児の遊びを禁止することなく、只十分監督をして幼児の分不相應を動作の行はれないやうに注意すればよい。幼児の自由遊びを放任することはよくない。監督なしに幼児を勝手に遊ばせて置くことはよくない。保育時間がすんで自由遊びである。保母は保母室で茶を呑み、雑談にふけり、幼児は全く大人の監視なしにしたい放題の悪戯をするが如きことは、勿論よろしくなし。

二

歐米の家庭で幼児を遊ばせるに階梯がある。まだ匍ふことの出来ない嬰兒は只ねころがして置く。我が國の如く負つたり、抱いたり、親や老人の膝から膝に幼児を運んだり、子守に負はせて外出をさせたりすることは皆無である。日當りのよい室に、幼児をねかせて置くだけである。幼児はめがさめて居れば、足をうごかし、手を動かし、聲を立て、仰向けになり、横になりしてゐる。空腹になれば泣く。しかし授乳の時刻が来ないと、どんなに泣いてもそのまゝにして置くといつた有様で、嬰兒を育てる。決して嬰兒に不相當な運動をさせたり、不適當な動作を無理に行はせるやうなことをせぬ。嬰兒はねたまゝで、手足を動かし、横になり仰向けになり、また腹匍になり、嬰兒の自力を以て運動して、自然に發育することを唯一の保育としてゐる。

嬰兒が座るやうになり、匍出し、漸く物につかまつて立ち、そろ／＼歩み出すといふ頃は、一メートル

ル半か二メートル位な四角な枠の中に入れて遊ばせて置く。幼児は枠の中で自由にその筋肉を働かしていろ／＼の動作をしてゐる。一定の枠の中で、危険なく手足を動かし、立つたりすはつたり、ねたり起きたり、いろ／＼の動作をして筋肉が発育し、身體が成長發達すると共に、幼児相應に精神も發達することは勿論である。この頃に椽側から轉落したり、爐に近いで火傷したり、また角柱に頭を打つてこぶを出かしたりするやうな危険ない。只幼児の發達に相應する玩具が二三種與へられる。そして幼児が獨り遊ぶのである。大人がいろ／＼おせつかいをしたり、幼児の動作を手傳つたりするやうなことはない。極端にいへば、幼児は枠内生活で、放任せられてゐるに止まるといつた有様である。大人が幼児の動作を代つて便じたのでは幼児の生活にならぬ。幼児の遊びとはならぬ。幼児の身體精神は發達するものでない。幼児は自分の動作によつて發育するものであることを、徹底的に實行するのである。勿論幼児は日常りのよい、十分換氣の行はれる室で、枠内の生活をなし、十分なる榮養と周密な身體的養護とを施されることは勿論である。幼児の出來ない、幼児の生活上必須なることは、大人に於て十分行はれるが、苟も幼児自身に出來ること、また出來なくとも幼児が努力して出來るやうになり、それが幼児の發達に必須なることは、大人が決して代理して行ひ、用を足してやるといふことをしない。即ち幼児遊び、幼児の生活を大人が奪ふといふが如きことを絶対にさけると、いつた育て方である。

これまでは専ら家庭の保育である。しかし幼児が既に外遊びを必要とするまでに成長し、遊び仲間を

必要とするに至れば、幼児の生活は一大發展をする。保育學校・幼稚園に入るもの、家庭の附近にある廣場なり、子供公園に遊ぶものと、いろ／＼に變化する。しかしどこまでも幼児の遊びが幼児同志にて行はれること、幼児に出来る動作は幼児に行はせることが尊重せられる。乳母車は歩行することの出来ない幼児が室外の新鮮な空氣中で日光浴をする必要のあるとき、幼児をのせてつれ出すものである。既に歩むことが出来れば、乳母車は必要がない。よち／＼歩むことによつて、幼児の歩行は確實になるのである。それでよち／＼歩む幼児を抱いたり、車に乗せたり、負つたりすることはよくない。歩むことの發達を阻害し、身體精神の發育を抑止するものである。しかしよち／＼歩むことは危険である。何時ころばぬとも限らない。またよち／＼走つても危険がある。そこでこの時代の幼児には、犬の如く綱をつける。犬の綱の如く、首に輪をはめて引ずるのではない。肩から胸に十文字に褌かけにして一端を綱として大人が持つてゐる。幼児はよち／＼歩み、大人は綱をもつてその後に従ふ。綱はゆるみを持つてゐるから、幼児の歩行には自由がある。しかしそれは危険のない範圍のことである。幼児は歩行することによつて、その歩行が上達し、幼児は歩行することを喜ぶことを十分に尊重するものである。幼児は遠出をすることも出来ず、また遠出の必要もない。乳母車に乗つて子供公園に行く時期はあるが、電車に乗つたり、自動車に乗つて遠出をする必要はない。歩行で行ける近距離の廣場や、子供公園で、幼児の遊びが行はれるのが主體である。幼稚園も保育學校も乗物で行かねばならぬ遠距離のものに行くの

は不適當である。近くの子供公園である子供だけが遊ぶ。砂場でも四五歳の幼児用、六七歳のもの、八九歳のものと、それ／＼年齢によつて區別がある位である。或は六七歳以下と以上とに二大別せられてゐる。ぶらんこ、すべり臺などになれば、それ／＼五六歳用、七八歳用、九十歳用、又十一歳から十四歳までと、劃然年齢によつて區別せられる位である。そして子供公園には幼児を連れぬものは入ることが出来ず、幼児を連れだした大人も幼児の遊びを補助することを條件としての入場である。この子供公園には英國などではナースが置いてある。ナースは幼児を遊ばせるのではなく、幼児の遊びを監督するだけである。幼児は幼児仲間て遊ぶ方が無理もなく、危険もない。幼児は大人と遊ぶよりも、幼児同志て遊ぶ方が眞に遊ぶことが出来る。それで子供公園のナースは子供の遊びがよく行はれるやうに、遊び道具に破損がないか、危険な個所が出来てゐないかを檢し、また幼児が皮膚をすりむくとか、眼に砂が入つたとか、また水をのむとかするときに、必要な手當や補助をするのである。決して幼児の遊びを世話やくのではない。幼児は各自に遊ぶことによつて、どこまでも楽しい生活をなすのであるから、大人が横合から邪魔したり、抑制するが如き不要な世話焼をしないのである。

三

幼児の自由遊びは大體に於て、その儘となし、特別な禁止や抑制をなす必要がない。只不良な遊びはどこまでも禁止せねばならぬ。幼児には不良な遊びと善良な遊びとの見界がつかない。何でも本能の發露

するが儘に、活動力の赴くが儘に、行動するものである。大人の如く道徳的な判断をなし、これはしてよい。これはしていけないといふやうに、明白に決定出来ない。幼児は全く悪いと知ることなくして、只活動欲を満足せんが爲めに、いろいろの動作をする。大人から見れば「あれはいけない。これはいけない」といふことがあるが、幼児にはそれが全くない。それで幼稚園に於て幼児の自由遊びを指奪することが實に肝要である。いけない遊びを禁止するが爲めに、幼児の自由遊び全體をなくするが如きことは、恰も角を矯めて牛を殺すものである。着物をよごすから砂遊びはいけない。泥いぢりはいけない。また水遊びもいけない」といふ場合が多い。保姆も父兄も着物をよごすといふ理由で、幼児の遊びを禁止することが多い。これは幼児にとつて甚だ迷惑なことである。「よごれてもよい着物をさせてもらいたい。思ふ存分砂遊び、泥いぢり、水遊びをするため、着物はよごれても差支ないやうにして貰ひたい」のが、幼児の希望である。着物をよごすから「あれはいけない、これはいけない」と禁止せられる位、子供に苦痛はない。着物から幼児の遊びを制限することは、實は大人の便宜である。汚れたら洗濯して貰ひたい。汚れたら變々洗濯の出来る着物を着せてもらひたい。といふのが眞に幼児の心理を理解した取扱である。幼児の左程喜ばぬ奇麗な着物をさせて置いて、「やれ、よごすな、ぬらすな」といふのは、大人の無理である。幼児の着物は大き變に汚れ易いものであるから、汚れもかまはぬ。汚れたならば直に洗濯をする。また成るべく洗濯し易いもので幼児が自由に運動出来るものでなくてはならぬ。

また幼児が手足をよごすから、泥いぢり砂遊びなどはいけないといふ。しかしこれも「手足をよごすからいけない」と禁止せず、手足をよごせば必ずよく手足を洗ふやうに躑けぬばならぬ。また幼児のいぢる砂場は屢々日光にて消毒し、また清潔なる砂を使ふやうにせねばならぬ。場合によつては幼児の手足を消毒液にて消毒する必要がある。

「廊下を走つてはならぬ。窓からとび出してはならぬ。机腰掛にのぼつてはならぬ。そこらに樂書してはならぬ」、是等は一應禁止すべき理由が十分ある。しかし廊下をかけることがいけないにしても、幼児が思ふ存分かけることの出来る場所を與へねばならぬ。窓から出入することは勿論いけない。しかし高い所にのぼりまた高い所から飛おりることの出来るやうに設備せねばならぬ。勿論机腰掛にのぼることはよくないが、のぼつても差支のない積木なり臺なりを幼児に提供せねばならぬ。それで幼稚園の保育室の内外に幼児が自由にのぼり下りの出来るもの、とび下りることの出来るもの、かけ上ぼり、かけ下ることの出来るもの、また滑つたりすることの出来る遊び道具を施設することが肝要である。また壁に樂書することはいけないから、幼児の自由に書くことの出来る黒板を豊富に備付けねばならぬ。それと適當に使用する方法を指導せねばならぬ。叱つたりせずに、遊び材料としてよいものと、いけないものと、遊んでよい場所とといけない場所とを、實地について明白に指導せねばならぬ。ぶらんこの使ひ方を指導せず、すべり臺のすべり方を指導せずして、「あぶないからいけない、もつと靜かに遊びなさい。そ

んなお轉婆はいけない」などと、叱責することは禁物である。

兎に角幼兒には十分活動し愉快に遊ぶやう、十分なる機會と獎勵とを與へることが肝要である。その爲には保母自ら幼兒と共に遊ぶことが肝要であらう。しかし多くの場合、幼兒同志遊ばせ、保母はその横にゐて監督し危険のないやうに注意するだけでもよい。全く幼兒の自由に放任することは、勿論いけないが、あまり八ヶましく束縛したり、操つり人形の如く幼兒を引ずりまはすが如きこともよくない。

幼稚園時代に於ては幼兒が自然に行ふ自由遊びを指導するだけで十分である。無理な體操を課することも、勿論競技を課することもよくない。せいゝごつこ程度の遊びをなさしめる位でよい。しかし幼兒が好んで行ふ遊びは、不良な結果をもたらすものでない限り、成るべく獎勵し指導するがよい。體育的にいへば、幼兒に上肢で體を支持する運動、例へば懸垂の如きものは成るべくさけるがよい。短い時間のシット遊びなどは勿論よいのであるが、長く體を支持することは幼兒は不適當である。また長く起立せしめる運動、足を踏み開いて起立するが如き動作もよくない。毬を投げることも幼兒には不適當な遊びである。尤も毬を中心として遊ぶ自然的なものは差支ない一般に努責作用の著しい遊びは筋肉の十分發達せぬ幼兒には不適當であり、長い緊張を要求したり、微細なる筋肉を使はねばならぬ精巧な動作は幼稚園時代の幼兒には不向である。

農繁期託兒所の普及

倉 橋 惣 三

農繁期託兒所の普及は、最も喜ばしいことである。我國從來の兒童愛護施設に於て、此の施設の如く、急速にして顯著なる普及を遂げたものは蓋し他にない。之れ一つには其の施設經營の簡單容易なるが爲でもあるが、主たる理由は、その趣旨の社會的必須にある。世に、之れ程必要の多いものは少なく、その必要の明らかなるものは更に少なく、殊に、實際的に効果の分り易いものは少ない。今や全國に亘つて、その數の一期毎に増加するのみならず、篤志者の事業から、自治體當然の事業として、その本質を認めらるゝに至つてゐることは、あたりまへのことゝは言ひながら、欣快の至りといふべきである。

而して、此の狀況を促したる、諸種の原因力に就て見るに、古くは其の精神を佐藤信淵に溯ることも出来るが、余の聞知する處に於ては、明治四十二年の頃、鳥取縣のものを以て最初として、その後岡山縣、愛媛縣、山口縣等それ〴〵近代の起源をなしてゐるものゝ如くである。しかも、近く、此の事に、顯著な貢獻と寄與とをなせるものは、愛國婦人會の此事業の實施と、大阪朝日新聞の獎勵とであらう。いづれも、社會的謝意を禁ずることが出来ない。

尙ほ、此の施設の普及の效果に就ては、更めて説くまでもなく、全國幾萬の幼兒が、從來殆んど放任

せられたる農繁期間の不幸と危険とから保護せられたことにあるは勿論であり、それ以外の効果は以て副次的となすべきであらうけれども、ちのづからの影響的結果として、農村に幼児愛護の精神を啓發せることは必ずや多大なるべきを信じて疑ひ得ぬのである。農繁期託兒所は、農繁期託兒所であり、それ自體の純なる動機を以て經營せらるべく、之れに他の多くの附帶性を要求せぬ方がよいとは、多くの識者の論ずる通りであるけれども、ちのづからなる結果が、幼児愛護の一般的精神を促進することは、拒むことが却つて六かしいことである。而して、その結果は、家庭の内にもあらはれるであらうし、社會的に常置機關の形となることもあるであらう。短き農繁期の事業の、ひいて及ぶべき處は、長くして廣いものともなるであらう。

但し、之れは、傍から見、後から顧みてのことである。當面の問題は、各農村に、此の施設を必要とする幼児達の生活、そのものゝ當面的凝視にある。従つて、その幼児達への愛護の周到さにある。身體をもつと共に、素よりこゝろをもつ彼等の愛護そのものにある。而して、之れが爲に、其の第一の衝に當る保母諸君の勞や、まことに重要なると共に、深く察し、厚く謝すべきである。本誌が各地の農繁期託兒所の實際を問ひて、第一に感ずる處も亦その點である。

兎に角く、眞に社會に必要なものは、そのよき實例を以て世に普及する。徳孤ならず必ず隣ありともいふではないか。今年一つのよき農繁期託兒所は、必ず隣を生ぜずにはゐないであらう。全日本を通じて、少くも一部落一農繁期託兒所は、理想といふよりも當然である。

(農繁期託兒所の經營に就ては、富山房發行、余及耕田君共著同書名のパンフレットを参考せられたい)

農繁期託兒所の實際

奈良縣磯城郡多武峰村

粟原農繁期託兒所

一 開設の動機と沿革

如何なる事業にも動機があります。動機がよければ自然とよい結果が生れるものであります。本託兒所開設の動機は唯、單に農繁期に於ける手足纏となる幼兒を收容して農家の勞作能率を増進助成するといふ經濟的の立場から生れたのではなくて、初等教育入學前二ヶ年間の幼兒に教育的施設をして純真な彼等をよりよく伸ばしてやりたい、つまりは二葉の香を思ふ存分放たせてやりたいとの教育的見地から生れたのであります。それで其

の名も「二葉會」と稱して大正十二年六月十日談山の森に杜鵑鳴く朝、孤々の聲を揚げたのであります。收容兒は磯城郡多武峰村粟原オホハラ尋常高等小學校區大字粟原・下り尾の兩大字百三十戸の中より五歳六歳七歳の幼兒三十名入會したのが始まりであります。經營主體は粟原小學校で創始者である東野校長は、郷土出身で二葉會の中心人物たる松本千代子女史をはじめ、部下職員を勵まし非常なる意氣込で毎週土曜若くは日曜日に二葉會の幼兒を學校に收容し、唱歌・遊戲・手工・談話・圖畫等を課し毎年之を續行し來り、根底が教育愛に據れることとして、保護者も神聖高貴なる此の事業に共鳴し、深き感謝の念を以て喜んで幼兒を出席せしめ

たので二葉會の成績は年と共に向上し遠近に其名を知られる様になりました。當時此の種の教育施設は幼稚園を除くの外奈良縣下では殆んど無かつたので、非常な興味を以て矚目され、縣當局よりも賞讃されたのであります。魁けて事を爲す程愉快なものはなく又そこには尠からぬ苦心のあることは勿論であります。

大正十五年より農繁期託兒所の施設を獎勵せられるやうになり、二葉會は茲に陣容を整へて純農繁託兒所の施設に改め爾來毎年春秋二期、每期毎日開設することとなり以て今日に及んだのであります。

創立以來八星霜そのはじめ母姉に伴はれて通學した幼児は、今や高等科第一學年に在學中で毎年二十名内外の修了者を出し、總計七回一百十四名の修了者を出しました。

昭和三年度同四年度奈良縣より助成金の交付を

受け同五年五月十二日大阪朝日新聞社社會事業團理事長村山龍平氏より助成金三十圓並に慈愛旗一流を賞與され縣下に於ける託兒所の先達として無上の光榮に浴したのであります。

二 現在の狀況

- 1 經營主體 栗原尋常高等小學校で託兒所長は現校長小林平太郎
- 2 保育係 小林校長及び訓導楠田マツノ、吉住千代
- 3 建物の坪數 二〇〇五坪 運動場三五八坪
- 4 受託狀況 小學校就學前五歳、六歳、七歳 受託兒童數男一八女一七計三十五名
- 5 保育狀況 年齡別五歳六人、六歳十四人、七歳十五人

(イ) 開設回數並に期間

春季自五月下旬至六月末日

秋季自十一月上旬至十一月末日

(ロ) 休日 日曜祝祭日

(ハ) 通學 最遠距離二十八町(三軒)峻坂の難路なれど、小學生と共に通學

(ニ) 編成 組別又は男女別にせず一團として取扱ふ。

(ホ) 日課 唱歌、遊戯、手工、談話、圖畫。

毎日授業時間數五時間。

(ヘ) 教室 裁縫室・特別教室を之に充つ。

(ト) 食事及び間食 辨當を持參せしむ。間食は各自家庭より持參せしめて均等に分與し、或は當託兒所より數回分與す。

(チ) 保育料 徴收せず。

(リ) 經費 縣・村等の助成金の交付其他有志の寄附金より必要の經費に充つ。

(ヌ) 身體検査及び醫療方法 每期執行し、虛弱兒は保護者と相談して食物・運動等に

留意し、食物は營養價値の大なるものを

攝らしめ、疾病兒は直接醫師につき療養

せしむ。トラホーム洗眼、ムクリ服用。

齒磨訓練等の口腔衛生、貳驅除、冷水摩

擦等は託兒所に於てなさしめる。

三 附帶事業

1 貯金 出產貯金として出產の當初より各兒童

の貯金を繼續しつあり。

2 神社參拜、學藝會、運動會、遠足、旅行等と

なす。

四 備品

備品の主なるもの左の如し

1 帳簿類 日誌・沿革誌・學籍簿、出席簿、備品

臺帳、會計簿、視察簿、參觀簿、職員出勤

簿、家庭訪問簿

2 唱歌・遊戯に關するもの オルガン（小學校

と兼用）一、移動式スベリ臺一、鞦韆三、

玩具數十點

3 手工に關するもの 積木材料一箱、鋏、色紙

4 圖畫に關するもの クレヨン數十箱、同用紙

五 後援機關

粟原校區には大正二年の創設に係る處女會と母の會とを大正八年九月に合併して一團となせる淑徳婦人會なるものがあつて、直接或は間接に託兒所の後援機關となつて活動せられるので當所進出上甚だ好都合であります。兒童は「姉さんの先生」など云つて喜んでゐる。

六 家庭との聯絡

毎期一回保護者會を開き、保育の實際を視察せしめ、家庭に於ける兒童の實際生活を問ひ、彼此

參酌して保育の向上を圖る。

七 偉大なる奉仕者

松本千代子女史

すべての事業には、中心人物が必要であることは論を待つまでもないこととありますが、世上その中心人物の偉大さの乏しいことによつて、破綻の悲しみを見せられることが多いのであります。當託兒所が年と共に伸展しつゝある事實の裏面には偉大なる奉仕者のあるあつたことを忘れてはなりません。それは多年淑徳婦人會長として二萬圓貯金を完成し或は二葉會の教の母として暉身の熱愛を二葉の成育に注いだ松本千代子女史其人であります。女史は櫻井高女出身の才媛で大字粟原の産、燃ゆるが如き郷土愛の精神は、幾多の美はしい事業となつて郷土教育の花を咲かせたのであります。曰く婦人會の活動、託兒所の經營等々、

春風秋雨十七星霜本年四月、輝く功績を遺して教育界を勇退されたのでした。一婦人の熱と愛!!
それはすべての者を活す最も偉なものであつた。

完

滋賀縣老蘇村農 繁期節託兒所

一、沿革 御大典記念として昭和三年十一月

開設以來農繁期託兒所として夏秋二回開設す。

二、組織 本村主管の下に村内神宮僧侶方面委員
學校職員役場吏員區長主婦會等一致協同し各字
主婦會員中より世話係を選出し各々責任を分擔
し開所中各自の任務に従事す。

三、場所 本村實業補習學校

四、目的 農繁期中幼兒を預りて農家の能率を増
進せしめ兼ねて身體を健全ならしめ善良なる性

情を養成せんとす。

五、綱領

一、強く 幼兒に適する運動法を講じ其の健康を増進す。

二、正しく 自由遊びの指導に努め輝かしき活動を成さしむ。

三、仲よく 敬虔的態度を養ひ協同和合の精神を語る。

六、施設

一、研究及協議會

1 準備打合會 村長校長僧侶區長等集りて左記協議をなす。

イ、開所時期 期間 時間

ロ、受託人員の概數(主として四歳以上場所の關係を考慮)

ハ、主婦會員中より世話係選出方

ニ、其他開所に必要な事項

2 開所中打合會開所式直後の感想に付協議す。

3 閉所式直後の研究會期間中の感想發表を成し次回の資料とす。

4 其他必要に應じて小問題なる時は世話係保育係方面委員僧侶役場吏員學校長等に於て其の都度協議決定す。

二、組の編成

受託兒を梅櫻の二組に編成し便宜二名の保育係に於て分擔指導す。

三、託兒の途上往復

各字世話係責任を以て之を世話して途上往復を安全ならしむ。

四、出席及健康調べ

出席託兒を毎朝組別に調べ此の時「はい」と云ふ返事の仕方を教へると共に顔色其他を観察して健康状態に異状なきやをも調査す。

五、朝の挨拶

出席調査後一堂に會し僧侶保育係世話係と共に朝の挨拶をなす。

此の時簡單なる「お話」をなして純真なる情操を養ひ訓練の統一を期す。

六、組分け又は合同して唱歌遊戯をなす。

保育係主體となりて範を示し兒童に楽しく模倣せしむ、決して幼弱なる幼兒に強いことに注意す。

七、自由遊び

各家庭の環境も個性も異なる十人十色の集りなれば消極的に「何々をしてはならぬ」と禁ずるより「砂遊びをするのには斯うすると面白い」と積極的指導に努力す。

八、食事の作法

一日數回の間食並に晝食の時は手を洗ひ正しく、座して「戴きます」「御馳走さまなど挨拶

をなす事や茶飯粒などをこぼさざる様導いて作法の躰をなす。

九、衛生の重視

外氣の溫度に注意すると共に晴天の時は戶外林間にて自由遊びをなさしめ輝ける活動の中に新鮮なる空氣と適當なる日光を攝取させることに努む、雨天室内にある時は必ず窓を開放して炭酸瓦斯塵埃吸入の度を少なくす。

十、疲勞の睡眠

人の健康保持に適度の食物と運動と睡眠の三要素を必要とするは勿論なれども農繁期幼兒の必要睡眠時間（十三時間）の不足を補ふ爲め或は運動後の疲勞恢復上より靜に睡眠の（二三時間）を與ふ。

十一、歸りの挨拶

歸宅せしめる時には毎日整列せしめ世話係引率の下に僧侶保育係等と互に挨拶をなして歸らし

む。

七、設備 備品

1 着換衣、毛布、敷物。

2 迂り臺、ブランコ、計數器、花ハジキ、ゴム毬、ボール、輪投臺、輪、舟形シイソ、積木用木片、遊動圓木、廻旋臺。

八、經費

1 毎年度村會の議決を経たる豫算額により支出す。

2 隨時寄附金品を受入れ之に充つることあり。

x x x

x x x

昭和四年開所狀況 十一月開所の部

開所日	天候	役員氏名	世話係氏名	託男	託女	惠與品
十月一日	晴	杉原 辻井	中村	五九	五一	マンザエウ、焼芋
二日	同	井上	辻井	五九	五六	センベイ、むし芋
四日	同	原田	中村	五六	四八	マンザエウ、むし芋
五日	同	原田	内田	五七	四五	センベイ、密柑
六日	晴後曇	山本	内田	五九	四八	ビスケット、むし芋
七日	雨	杉原	内田	二二	二四	茶玉、むし芋
八日	曇	山本	内田	五三	四五	茶玉
九日	晴	山本	内田	六一	五三	キャンデー、焼芋
十一日	雨後曇	原田	中村	四八	三八	飴玉、むし芋
十二日	曇	原田	辻井	五九	四八	落花生、むし芋
十三日	同	杉原	中村	六〇	四七	千兩箱、キヤラメル、ヤキイモ
十四日	晴	深尾	廣部	六〇	四七	飴玉、むし芋
十五日	同	水谷	原田	五六	四九	飴玉、千兩箱、むし芋
十七日	同	原田	溪	五三	三九	密柑、やきいも
十八日	雨	水谷	内田	五一	四三	ホーロ、焼芋
十九日	晴	深尾	原田	六〇	四九	玉手箱、ホーロ、むし芋
二十日	曇	中村	辻井	五九	四八	キヤラメル、むし芋

常任保育係 伊藤とみ 岩田きみ
 辨當は各自持參年令は五歳より六歳迄

開所日數十七日 世話係延人員八十五人
 受託兒童延人員千七百十人
 一日平均受託數 百人

昭和五年度開所狀況 五月開所の部

開所日	天候	役員氏名	世話係氏名	託兒	惠與品
五月廿七日	小雨	辻井 淡	仙波 中村	五男	マンジュ、センベイ、玉手箱
二十八日	曇	辻井 浅野	深尾 多	五女	マンジュ、センベイ、松風
二十九日	晴	原田 中村	廣部	六男	ビスケツト、ウイロウ、魚釣箱
三十日	同	深尾 内田	同	五三	ビスケツト、ウイロウ、魚釣箱
三十一日	同	杉原 山本	原田	五三	正チヤンセンベイ、三角旗、角センベ、飛行機、飴
六月一日	同	内田 淡	同	四九	センベイ、ウイロ、玩具、飴
二日	曇	辻井 原田	同	三四	センベイ、バナ、キヌマキ、鯉ノホリ
三日	晴	内田 中村	同	四一	ビスケツト、キヤラメル、笛付玉手箱
四日	曇	杉原 水谷	同	四七	キヌマキ、バナ、センベイ
五日	雨	浅野 原田	同	四三	センベイ、バナ、センベイ
六日	晴	山本 中村	同	四三	ビスケツト、ヒーナツ、キヤラメル、玉手箱
七日	同	山本 内田	同	三九	ビスケツト、ヒーナツ、キヤラメル、玉手箱
八日	同	杉原 原田	同	四二	丸センベ、朝日ヒース、グリコ飴
九日	同	溪 山本	同	四〇	ビスケツト、バナ、キヤラメル、オキナアメ
十日	同	内田 中村	同	三四	センベイ、中華マンジュ、笛付菓子
十一日	同	内田 深尾	同	四二	ビスケツト、フテイセンベイ、ニツキモチ
				四〇	動物ビス、ウイロ、センベイ、スミ、コマ
				三八	パール、瓦センベイ

十二日	同	山本	水谷	杉原	同	上	四〇	三八	センベイ、キヤラメル、玉手箱
十三日	同	辻井		原田	同	上	三九	四〇	センベイ、ウイロウ、ニツキモチ
十四日	曇	原田			同	上	四三	四〇	センベイ、キヤラメル(パール)、水無飴
十五日	雨	内田	廣部	山本	同	上	三六	三三	センベイ、キヌ巻、玉手箱
十六日	曇	辻井	中村	山本	同	上	四二	四一	センベイ、マンジュ、袋入取合菓子

常任保育係 伊藤とみ 三橋きみ 辨當各自特參年齢は四歳より學齡まで

一、開所日數 二十一日間 一、世話係延人員 百五人

一、受託兒童延人員 壹千九百五人 一日平均人員 九十八人七分

佐賀縣三養基郡麓村

立石無料託兒所

四、事業區域

麓村立石區一圓

五、事業概要

- 1 目的 農繁期中婦人の活動を容易ならしむるため各農家の乳幼児を一定場所に收容保護す。

- 2 設立 大正十三年六月六日創立

- 3 經營 立石佛教婦人會幹部

イ、代表者 區長 一名

一、名稱 立石無料託兒所

二、設立者及び代表者

設立者 麓村立石區

代表者 區長

三、事務所所在地

麓村立石區誓宗寺(眞宗)

ロ、顧問 誓宗寺住職 一名

ハ、保母 佛教婦人會幹部 六名

ニ、助手(子守) 一名

4 事業經營狀況

イ、開設期間

第一回 麥收穫) 六月上旬(約一週間)

第二回(田 植) 七月上旬(同)

第三回(稻收穫) 十一月中旬(同)

第四回(麥 蒔) 十二月上旬(同)

第一回二回は午前六時半より午後七時半迄

第三回四回は午前七より午後五時迄

ロ、收 人員

兒童一日出席數 約三十人

延人員 八百五十人

兒童年齡 生後百ヶ日より滿六歳迄

ハ、經費

收入 縣助成金 二十五圓

經營者寄附 五圓

(別に保育料など何も徴收せず)

支出

設備費 五圓(蚊帳、ハンモック、バケツ、洗面器等)

間食費 十五圓(お菓子、お芋)

諸雜費 五圓(チリ紙木炭燻取紙半紙圍扇手拭其他色々)

助手手當 五圓

(保母謝禮なし)

ニ、設備

場所 同村誓宗寺境内青年俱樂部

建坪 十二坪(三間に四間の板張)

遊場 前庭三十坪ばかりと寺院境内

備品 スペリ臺、ブランコ、馬乗り

ハンモック 五ツ

蚊帳 二ツ

毛布 二ツ

火鉢 二ツ

茶瓶 二ツ

洗面器 二ツ

バケツ 二ツ

茶碗 五ツ

湯上り 五枚

手拭 五ツ

其也 玩具色々

帚木 二本

當託兒所は無料託兒所で子供を託けるのは全然無料でも徴收せず、保母も全く謝禮なしの無料でたゞ一名の助手(子守)に少しの手當をする事になつて居ります。一日に約三十人ばかりの子供が集まりますがその中五六名は生徒百ヶ日以後の乳兒で保母は各自抱いたり負つたりして眠つた子はハンモック毛布に靜かに寝かしておきます。

二三歳以上の子供は晴天の時は皆外に出てスベリ臺やブランコ、馬乗等に乘つて終日楽しく遊びます。

子供は皆辨當持參で辨當開きを楽しみにしてあります。

午前中に二三回午後二三回づゝ間食として菓
子やお芋(夏は馬鈴薯、冬は唐芋)を與へます。
乳兒は母親が二回三回と授乳時には出かけてく
る様になつて居ります。

保母は中食は各自交替に自家に行つて食べる事
にしてあります。時には心ある子供の家から中食
やお茶受けのお接待を受ける事も御座います。

保母からも一人一回宛ち茶受けを持ち寄る事に
して居ります。

かうして朝は早くから夕方は日の暮れる頃まで
子供達は楽しく遊んで母親のお迎へを待つてうれ
しそくに家に歸つて行きます。

毎日かうして一年に四回、一回毎に一週間ばか
りづゝを終日子供達と一所に過すのも色々心配は
ありませんけれども又一つの楽しみで御座います。

親達も子供を安心して託ける事の出来るのを大變によろこんで感謝してくれます。

岡山縣眞庭郡河内村

農繁期託兒所

一、開設日數 昭和五年六月二十日から同二十六日迄七日間（本年度は三回目）

二、毎日託兒せる時間 午前七時より午後五時まで

三、託兒の場所 三ヶ所、上河内神社、中河内小学校内、下河内神社内

四、收容託兒數及年齢 上河内六三人、中河内四七人、下河内六〇人、四歳より七歳まで但し子守ある者は一歳以上

五、行事 午前 遊戯、お話、唱歌、主として教育的に遊ばせる。午後同前但し適當に休養時間

を置く。

六、晝食に對する處置 託兒の持參が主で時々握

飯副食物を與ふ。

七、間食の種類及回数 菓子、り豆、果物で午前

一回午後二回

八、決算（經費情況）

收入

本會負擔 七六、二〇圓

寄附金 二五、〇〇圓

支出

間食及副食物代 五七、二〇圓

三ヶ所事務所費 九、〇〇圓

繪本國旗袋等 一一、〇〇圓

雜費 一五、〇〇圓

備考 村内よりの寄附物件は計上せず。

九、設備 ブランコ二個 スメリ臺一個 専用腰

掛八個 オルガン三 蓄音機一 繪本、運動具

色々

一〇、援助 村農會、婦人會、女青團等わけて小學校特に女先生の援助は多大なり。

一一、其他

保姆の數は上河内一二名 中河内九名 下河内七名

出席託兒はすべて農家なり。

一二、所感

1 質素且農村向の託兒所たらしめたること

2 平素周囲の刺戟なき農村にてはこの種の會合は教育上好影響ありしものと思考さる

大阪府豊能郡萱野

農繁期託兒所

藤原 淨信

日本幼稚園協會の編輯部より、私の農繁期託兒

所經營に就ての實際の様子を書けとのことでありますが、未だ淺い經驗しかもたない者が尊い誌上を汚すのも如何と思ひもしましたが、然し又この私の經驗から今後斯種事業を營れる方の幾分の御參考になり、お役にたつこともあればと思ひまして、貧しい經驗乍ら皆様の御研究の資料として捧げたいと思ひます。(然し私は今旅行中で記録を手元に持たぬ故くわしく意を得ないのを残念に思ふ。)

(概要)

私の村は大阪の郊外五里計り北、紅葉で有名な箕面の山と千里山の間にある約五百戸程の村で全部が恰ど純農でありますから、年二度の農繁期の多忙さは今更申迄もありません。私は本願寺の教用で年中恰ど旅行をしておりますため、門徒以外は村人達と殆ど親しく接する機會もなく、せめて農繁期の間なりと寺に居つて、困つてゐられる農

家の子達のお世話をしたらと思ひ立つたのが昨年の秋です。もと／＼春頃より村の婦女會の方でも、お話があつたのですが、五百の戸數が十ヶ字に分れて長い地形にある關係上、開けば各字に開かねばならず、村の方としては大した豫算もなし、行惱になつてゐたのを私個人として、近くの字だけを引受て開くことゝしたのであります。

何分私の分では郡内初めての新しい施設として、一般の理解もないので、六十戸と二十戸との二字より三十名の定員として託兒者を募集しました處、意外にも多く四十名近く申込者があり、毎日赤ちやんをまじへて三十六名平均集りました。それに力を得て今年は更に關係區を一區加へ、六十五名の託兒者を受付毎日五十名程づゝお世話をしました、何分保育上未經驗の素人のみの仕事ですから十分なことは出来ませんが、赤ちやんをお預りしたら、お辨當を出したり、出来るだけの努

力はして見たつもりです。いつの間にか親子の様に觀しんでくれる子達のことを思ふと、すべての苦勞を忘れて、他人の知れない樂しさがあります。初めは理解しなかつた村人達も今では心から悦んでくれますし、村當局の方も力を入れて下さるので、村内にせめて、もう二三ヶ所ほしいものだと思つてあります。この間も南の方の寺でこの秋から、開き度と申してゐられましたから、實現すればうれしいことです。

(準備)

- (1) 保育係の保育智識養成
- (2) 經營方法の組織
- (3) 宣傳及募集
- (4) 設備

準備としまして以上四つのが必要であります、先づ第一保育の任に當る、人物を適當に選ばねばなりません。これが専門の智識のある保母が

ある場合は心配が入りませんが、素人の場合には、とにかく保姆の代用として仕事が出来るまでの養成をせねばなりません、それには一番近道は近くの幼稚園に四五ヶ月位、それが出来ねばせめて半月でも一月でも見習に行くことです。私の方では保育の任に當つてくれる愚妻が長男が幼稚園に行く頃に、送り迎へをしてその間に覺へたのを、もともととしてやつたのですからおぼつかない限りです、その上オルガン一臺なしにお遊戯をやるのですから、とても無理な骨折りがいります、この秋までには小さいものでも一臺ほしいと思つてゐますが、中々意にまかせません。

次に經營方法の組織ですが、之は經營主體が、個人、團體、村營等それ々の主體の別に依つて違ひますが、私の方は個人經營ではあります、村の當局及有志者の理解を得る爲に皆様と相談して、左の如く決めました。

1	名稱	萱野農繁期託兒所
2	位置	大阪府豊能郡萱野村大字白島、常照寺内
3	目的	(イ)農繁期の能率増進 (ロ)母體及乳幼兒の保護 (ハ)學童の缺席防止 (ニ) 兒童を通じて農村文化の向上
4	期間	毎年六及十一月の二期
5	年令	生後六ヶ月の乳兒より學令期までの幼兒
6	定員	三十名(本年より五十名とす)
7	保育課目	遊戯・唱歌・手技・觀察・自由遊技・野外保育
8	保育時間	朝七時より夕五時乃至六時まで
9	料金	昨年は一切無料(本年より一般の希望に依り間食代一期三十錢及晝飯米白米一升と定む)
10	従事者	所長一、保育主任一、醫員一、理

事若干名、保姆係補助員昨年は二名本年は三名篤志奉仕者一名

以上の如き案を作りいよく、開設の準備に入りました、先づ宣傳と募集にかゝつたのです。先にも申した通り郡内初めての仕事と云ふので、託兒所云々と申しましても諒解がありませんから、印刷物に一通りの要項を書いて配つた位では駄目なので、村人達の會合の席で説明したり、戸別訪問をして直接母親達によく理解の出来るまで話をし、て巡りましたため、その功か豫想以上四十名近く申込者が出来ました、然し親は承知してくれましても肝心の子供が集つてくれねば、駄目ですから、氣分をつくるために繪入のポスターを書いたり、又旗行列等をして始める四五日前より一二時間づゝ寺に集めて遊せ親しみをたつくりました。

その間に設備の用意をしたのですが、先づ本堂前の境内の一部を改造して子供の爲の遊園を造り

ました、大體日本式の庭園は樹木や岩石が多くても箱庭式に出来てゐて子供の爲の遊場として適しません、植木を移植し岩を取りのけて廣場を作り、ブランコ、シーソー臺、スベリ臺、砂場等通りの遊道具が出来上りました。然しこの全部の設備で十圓内外で出来たのです、(現在の砂場は本年改造したもので砂場だけで十圓以上も要りました)ブランコの高さは餘り高くない方が危くなくてよろしい、繩の長さが六尺もあれば十分です、スベリ臺は私の方では本堂のお縁から這る様に造りました之が一番安全です、砂場は大邊子供が面白く遊ぶものですから、本年は完全に造り變へたのです、外の土と交らない様にすることゝ砂は土けのない少し粗らいものでよろしい、雨の時の用意にトタンで屋根を造りました、それから砂場の近くに手や足の洗場も造りました、之は是非必要です、その他玩具は、自分の子供の有り合せのも

のや、村の處女會の方達に少々作つてもらつたり
 しましたが、それよりか、蒲鉾板を澤山集めて、
 積木や砂場にも用ひてゐますがこれが一番よろし
 い。本堂の内外は萬國旗と花飾りで、寺の寂しい
 氣分を明るくする爲め苦心をしました、その花飾は
 百貨店等の包紙の古いのを色紙の代用にして作り
 ましたが店に依る紙の色が違ひますから、美しく
 出来上りました、その他、辨當箱、三十個 湯呑
 三十個、バケツ、机、手技用品等を取揃へて準備
 が調ひました。

(第一回目)

扱て、いよ／＼開設となつたのが、十一月五日
 でした、託兒時間は朝七時より夕五時まで十時間
 と決めましたが、所長さんから小使さんの仕事ま
 でやらねばならぬ私は、毎朝四時に起床して、本
 堂のお勤をなし、お掃除をすませると、早い子供
 は七時前から先生お早う、と元氣よく集つて來ま

す、朝寒の時などは焚火をして温らせませす、私の
 方では實際困られるお宅のお見さんより第一に預
 る者から、生れて半年餘りの赤ちやんを二人預
 りしました、尙保育方針は乳兒には母乳を與へ、
 幼兒は出来るだけ、野外保育を中心として自然の
 まゝ育てようとする考より、午前一回、午後に
 一回お宮の森や、藥師堂のお庭に遊に出かけま
 す、その度毎に赤ちやんや、小さな兒は乳母車に
 入れて、押したり、泣き出せばお抱こしたりして
 村中を歩き廻るので、中々骨折りです、夕方にな
 つてお日様が西に入る頃になると、やれ／＼と思
 ひます、初め四五日は夜になると私達は綿の如く
 疲れて生體もなく眠るのでした、でも四時の目覺
 しが鳴りますと、新しい元氣を出して飛起るので
 す、然しもうその時近所のお百姓はお仕事にかゝ
 つてゐるのです。あゝ、こうした都會の人々の夢
 にも知らぬ努力で、私達の命の親であるお米は出

來上るのです。しばらくの苦勞位忘れねばなりません。

兒童の中に家を出る時、たらしもの（間食のもの）を貰つてくる兒もありますから、色々注意して止めさせました。託兒所の方から出す二度の間食は主にビスケットを五ヶ乃至七ヶ位づゝ與へました、その外親達より子供達に頒てくれと云つてお芋を頂きましたので一日おきに一回づゝ出しました。が之は非常に手數がかゝつて感心しません、お菓子で一回約一錢と見積れば大丈夫です、品に依つては七厘位のものもあります、（但し私の方は原價位の値で頒けて頂いたから特に安かつたのでせう）お辨當は毎日出來ませんが、特に多忙期の間だけ出すことにしてゐます、農繁期の託兒所の兒童は家庭の程度が不同の爲め、お辨當箱や御馳走に不同が出來て幼い者の魂に寂しい僻んだ心持を起させない様にと思ひ、辨當箱も、兒童數だけ用

意しました（一個二十六錢湯呑付アルミニウム製）粗末なものでも皆で一緒に頂くことにしたのです。元氣に充分の運動をして頂くものですから「おいしい、おいしい」申して頂いて呉れます、お晝の時間が來て佛様の前に銀色に光る、お辨當箱が並ぶと、皆のニコ／＼とうれしそうな顔つたらありません。家へ歸つて「お母さん今日はお寺でお辨當頂いたよ、お寺の御馳走はおいしいよ」と親達に聞せつゝ今までは夕飯もズツト多く頂くそうです。實際、み佛様の前で仲良のお友達と一緒に食事をするのは、幼き者の心にも、謂知れぬ尊い心の和みがわくのでした。

午後は、手技に摺紙をしたり、時にはクレオンで思ひのまゝに自由畫を試しても見ました、子供達には手工のものを家に土産に持つて歸へるのも、樂しみの一つでした。オルガンがないまゝに手拍子で教へるお遊戯や唱歌も、すぐ覺えてゆく

のです、託兒所に來ない、學校の兒まで村中に託兒所で歌ふも唱歌が流行する様になりました。然し午後の學校の放課後、小學校の生徒が來ていたづらをして遊んで呉れるのは恰ど困りました。

學校の方からも注意して貰つたのですがそれも二三日だけで又來ます、ひとりづつに私の持前の大きな聲が出るのでした。

ある一日、大朝、大毎兩新聞の記者が訪問せられ、その翌日の新聞に、大きな活字の記事と自由遊をしてゐる實情の寫真とが兩新聞とも出ました、その頃から始め理解しなかつた村人達も、私の仕事の上に何分理解をもつてくれる様になりました、又仕事の方も段々落付いて來て順序も調つて來ました、毎日の日課の大體を記しますと、朝七時より八時半までの間の集合（之は通にこちらから出かけて行くのです、それでないとどんなにわけのある兒も、家の人に送られて來ると、別れぎ

はに愛着心が起るばかりでなく、その日一日時々家が戀しくなるので困るのです。九時まで自由遊九時に朝禮。朝の歌。點檢。遊戯。野外遊。間食。自由遊。晝食。自由遊。野外遊。間食。手技。自由遊。退所の歌。退所（六時）と云ふ順で然しその時々都合で多少變更するのです。

こうして二十間の後、農家の多忙期も終り、收穫期後の村の公休日となりましたので、十一月二十四日の閉所式を舉げることになりました、この間一日平均三十六名延人員七百二十名の託兒者があり、その内一人の病人も出ず無事に終りました、然して内に親は託兒致度くても兒の方でどうしても來ないのが二三ありました色々方法も考へましたが、見込がなく失無を得なかつたのがあります。それは平生可愛餘りに、氣儘に育てゝあるとか、近所の兒とも親しませてない爲に、そうしたことになるらしいのです。

閉所式には、お母様達にも出席して頂き式後、期間中に習ひ覺の、お遊戯をお母様や來賓の方に見て頂きましたところ、お母様達は泣いて喜んで下さるし、來賓の方の一人小學校の一年生受持の先生等、お上手に申されたのですが「私達が一年受持の間にさえこんなになつて訓練することが出来ない」と等と、賞めて下さるので私達の苦勞が幾分でも報られたことをみ佛に感謝するのでした。パヨ／＼お別れのち唱歌の時は私の愚妻など遂に泣いて了つてゐるのです、たとひ短い間でも親子の様に親しんだのも私もいつしか胸が一つばいになつてくるのでした。

この第一期間の經費は、設備費から、米代、間食代、保育係補助員達への禮金、閉所式費その他一切で百四十圓餘り、一人平均十九錢強、之は晝食を出したので金が多く要りました、然し保育料は一切頂かず、この經費も自分で初めだけ支出す

る決心でしたが、村や赤十字社、その他方々より補助金を下されたので非常に助かりました。

(第二回目)

前回の成績に力を得て本年の夏の農繁期に於ても開設すべく計畫を建てました。昨年一番困つたのは、保育係りの適當な人物を得られないことでしたから、先づ人物を養成すべく、本願寺が主催で第二回農繁託兒所講習會が大阪の津村別院で催されたのを幸に、愚妻と村の娘さんの一人を講習會に出席させました、尙愚妻の方は春より近くの幼稚園に長女を伴つて見習かた／＼通つてゐました、(第一回講習會の時は、京都でありました爲、私だけ出席したので)、その他本年女學校を卒へた私の妹と、他にもう一人村の娘さんを頼んで、四人の保姆代用者をこしらへました、皆、素人で今年もやはり、一番この保育係に困りました。理想を云へば、若くて、美しく、快活で、理智

的で、氣がるに働いて、落付があつて、無邪氣な感じのよい人で、而もその上お金の要らぬ人と云ふ條件だから、めつたにそんなのは得られるもんでない。然しそれ程でなくとも、氣がるに無邪氣に働いて、仕事に理解を持つ人さへあればよいがそれが中々ない。昨年等どうしても見込がなく、

本人にもお氣の毒だから中途で斷つたのが一人あります。然し昨年の時小學校の先生の奥様で奉仕的に働いて下された方があり、この方は大邊よかつたのですが、今年も信者の方で相當の年の婦人が奉仕的に働いて下されたが、この方は、非常に親切な方ではあるが然しそれがかへつて、親切過ぎるので子供が、親しむと云ふより、甘へてしまふので困りました、やはり若い方の方がよろしい。然しこの方はお辨當の方の仕事を手傳つて頂き非常に助りました。何分今年は託兒申込數が、一區、部落を加へる爲に、六十五名も申込者があ

り、前回のまゝでは少し無理な爲に、遊園を擴張したり、砂場、便所等の改造をして設備を改め、辨當箱、湯吞等も新に調へました、今年は物價が下落した爲、アルミニウム丸形の辨當箱小が十四錢、大で十九錢、湯吞が四錢で求められました。

扱ていよく始めたのが、六月五日。恰度その頃は吳市の方に教用で出張中でありましたが、朝日新聞社より優良託兒所として表彰されて、慈愛旗の傳達式が大府廳に於てあるから、歸れとの電報に接し、五日の朝大阪驛に着き早速登廳して、知事代理としての學務部長より、慈愛旗と助成金とを授與されました。全國二千有餘の託兒所中僅か一回の貧しき奉仕で百ヶ所程の中に入れて表彰されたことは、實に光榮の極でした。大阪では二ヶ所だけ、今一ヶ所は大阪で最も經驗多貴志村でありました。慈愛旗は帆布製で質素な中に

質實剛健を表した、大旗です、託兒所に歸ると、朝から集つて私の歸りを待つてゐる兒童に迎へられ、この旗を中心に、よろこびの歌をうたつて、み佛の前に第二回託兒所の開所式を擧げました。遇然にも開所式の當日、表彰されたことは何となく意義のあることに思はれてうれしいことでした。

扱て、今年は昨年とは二十人程も多いので、中々の骨折りです。初め二三日は頭がボーンとして終ひそうでした、それに第一困つたのは氣候の關係です。昨秋は、野外中心に過しましたが、今年は暑さの爲に野外どころか、屋外の遊も日光が強くて、出来ない有様に、早速テントを張り張り日影をつくり遊せましたが、梅雨期ですから、時々雨が降りますと、室内より仕方がありませんが、本堂が狭い上に室内用の玩具が不足なので困つて了ひました。その上氣候の變化で病人が次々と出

來ます、しかも流行性の感冒の一種で、すぐうつり急に四十度前後の發熱をするので、非常に心配しましたが、幸大した悪性のものでもなく、四五人にて止り、心配した程もなく安心しました。ところが又或日私が所用あつて役場まで行つた留守中、晝飯の用意の間に、兒童の一人が互に戯れて、腕の骨を碎じき、怪我をしたのです、早速専門醫の手當を受けましたので大した事もなく治りましたが、他人の大事な子ども達のことゝて、愚妻等青くなつて心配してゐました。又親達に正しい衛生思想がなく、保健上種々氣附く點もありましたから、こちらで出来るだけは、いつもの場合と自分の兒として時折臨機の手當をしました。

引き續く雨の日に樂器一つ持たぬ託兒所の悲哀は、子供の氣分を愛護する私達にどんなに、はがゆかつたでせう、その時、大阪のある銀行に勤める村の若い娘さんが、同銀行内のある方に頼んで

立派な蓄音器を一臺貰つて来て下さいました、早速、童謡や童話等の面白いレコードを求めて来て、淋しがつてゐる子供を喜ばせてやりました、その日から子供達には快活なよいお友達が増したのです。然し田舎の子供にはやはり一番うれしいのは、お辨當の時間です、然し五十人分のお辨當をつくるには、朝八時頃より十時半頃まで二人が

ゝりで一生懸命です、このお辨當は今年も妹が一切引受けてくれましたので子供達は、おいしい御馳走が頂けるので幸でした。或る一日朝日社會事業團の濱田光雄氏が訪ねて下さつた時恰度お晝の時間でしたから、兒童と同じものを共にあがつて頂きました、子供は知らぬおぢさんがゐられても何の變りもなく無邪氣に、おいしいそうに頂くのでした。その翌日濱田さんより兒童へなつかしいお手紙を頂きました、その中に、お辨當の前の時間に大きな兒が小さな兒の手を洗ふのを手傳つてゐ

たことを見たと、ほめてゐて下された、何日しか子供の心にそうした美しい心が宿つて来てゐるのか、と我が子を賞められたうれしさに涙ぐむのでした。實際、初めの間は他の村から来てゐるものとは一緒に遊ばなかつたり、時々喧嘩をしたりすることもありましたが、いつしか皆善よしになつてゐるのでした。

今年も、愛國婦人會の方より援助して下され、支部長の柴田知事夫人一行は六月二十四日吾が託兒所を態々訪問されました、夫人は兒童にとりて實におやさしい、よい小母様で、親しくお手づから子供達に一々お土産の晝本や、お菓子をお頒けて下さいました、子供の喜は大したものですよ。お歸りの時に記念の撮影をさせて頂き村の子供達は知事夫人に同列でよい光榮に浴しました。村人達もこうした寒村に知事夫人の來られた様なことは初めてのことなので、心から喜んでくれました、とに

かく農村のありのまゝの現情をこうした方達に見て頂いておくこともよいことだと思ひます。その時の様子は愛國婦人會大阪支部より發行してゐる母姉講座の七月號にその時一緒に來られた、星野不二子様が、農繁期託兒所の印象と題して委しく書いておられます。

こうした中に、目のまわる様な多忙期も過ぎ、又村の公休日が來ました、六月二十六日、二十二日目で第二回目の閉所式を舉げたのです。この間延人員約一千百人、一日平均五十人、經費通計金一百五十餘圓、一日一人平均約十四錢。この費用も七分通りは諸方面の理解ある御援助で補はれてゐます。

(母の會)

閉所式の後、その他時折母の會を催して、保育上の御相談をすることにしてゐますが、今年は見童愛護の思想を向上さす目的で、朝日新聞社の社

村又男先生に特に御苦勞を願つて、兒童愛護の御講演をして頂きました。兒童愛護の問題は近頃一般に考へられて來ましたが、農村に於ては、都會に比して、思想の上にも施設の上にも未だ殆ど問題にされてゐない有様です、然し私は農村に於てこそ、農村にふさはしい、兒童愛護の文化的施設が是非ほしいと思ふのです。然し現在都會にある、小學校の下の方に延長の様な幼稚園は望みません、理想的家庭生活の一部としての兒童の爲の樂園、そうしたものがほしいのです。農村の兒童は、大自然のふところに淨き大氣を呼吸して生長しながら、その指奪者を得ぬため、暗から闇に、野生のまま過ごしてしまふのです。彼等の心に人間としての尊さと、生くる明を知らせたなら、どんなに偉大な魂が現れてくるかも知れぬ。私はこの農繁期の託兒所もたゞ短期のその場限りの、親達の御氣嫌取りの仕事として終らせず、幼きも

のを通じて、農村文化の基礎を築くべき理想のもとに、尊き仕事として奉仕したい信念をもつてゐます。

尙、私の方ではこの理想のもとに農繁期間のみでなく毎月一回づゝ兒童の集會をして、子供のための楽しい一日をつくつてゐます。母の會を出来るだけ多くしたく考へてゐるのであります。

(自治の精神に基いて)

農村文化の建設に就ては、幸近時、爲政者等も農村問題に就て眞面目に考へてくれる様になりましたから、農村の文化の上にも一道の光明を見出したわけですが、然し諸々の社會問題は自治的精神に立脚してゐなくては實質上生命のないものです。外部より客觀的に觀て見積つた農村産業合理化や農村衛生思想の普及等大きな聲の割に實際の効果は難しい。實際の問題は農村それ自身の自治的自覺より生れた仕事でなくては農村自らを救ふ

力とならない。託兒所等形式の上より云へば最も簡単な設備で出来る容易な仕事の様ではあるが、他よりの宣傳や人真似では駄目で、やつたところが何の功もありません、自らも農民としての自治の精神より、即ち大なる意味に於ける母性愛の發露より、愛の實行としての奉仕でなくてはなりません。私は佛教の僧であり親鸞の末弟でありますから、宗教的信念の上より、報恩の實行として奉仕させて頂いてあります、農夫と共と法歌を詠ひながら、田植をされし祖聖の徳を偲びつゝ可愛子供達の手をとるのであります。旅行中の爲に充分様子の書けなかつたが、我が國の農村にも健全な保育施設が一日も早く出来ることを念じつゝ、筆止めます。昭和五、八、九夜

(岡山縣笠岡町五松園精舎にて稿)

新刊紹介

○歐米の學校體育と幼稚園の遊戯

久保富次郎著

著者久保氏は歐米諸國に於ける學校教育殊に幼稚園遊戯を視察するため昨年秋海外に出張し英、獨、丁、佛、米の諸國を研究旅行し、その間に於て視察せる概況をありのまゝに紹介したものが本書である。百六十餘頁の小冊子であるが五十餘の寫真版を挿入し要領よく簡明に記述してある。歐米の學校體育並に幼稚園遊戯の狀況を知るには蓋し良書といはねばならぬ。(定價金壹圓參拾錢 香川縣都村有爲堂發行)

○最も新しい學校ダンスと唱歌遊戯

久保富次郎著

著者久保氏が外遊中に創作せる學校ダンス及び唱歌遊戯十五種を載せてある。學校ダンスとして

大洋に向ひて、ホイカル・ダンス、キンダー・マツルカ、エルゴ・ダンス、ドラバンド、トウキンクル・ダンス、リーベン・ダンス、シボウ、チェリー・ダンス、ウオツシンク・ダンスの十種、唱歌遊戯として風あげ、お花かざして、かごめ、端午、稲屋さん、の五種を上げてある。寫真一〇九圖を使つて具體化してあり適用を明白にしてある。十五種中著者が小學校上級及び高等女學校、に適するものと考へたもの六種幼稚園及び小學校第一・二學年男女兒に適するものと考へたもの四種小學校第三學年以上の男女に適するもの二種小學校下級用に適するもの三種を載せてある。實際家の研究上大に裨益するものと思はれる。(定價金壹圓五拾錢 香川縣都村有爲堂發行)

歐米幼稚園の實際

——日本幼稚園協會に於ける講演——

女子學習院教授 宇佐美ケイ

歐米幼稚園の實際に就ても話申上ぐるのであります。協會の機關雜誌、幼兒教育に書きましたので、その方を略して申し上げやうと存じますが、併し同誌を御讀みなさらぬ方の爲めに、英・米と比較の必要上大略申上ぐる事にいたします。

フランスと申しても私の觀ましたのは巴里市に止まりますが、公・私・共に可なり多數の幼稚園がありことに公立は小學校に必ず附設されて居りますので巴里市だけに各區五個、各幼稚園に百二十名から二百名の幼兒をうけいれて居ります。私立の方は割に少く、また一幼稚園の幼兒數も二

三十から四五十位で中流以上の家庭の子供を教育して居ります。この點は英米とも同様と存じますが、富裕の家庭にはナースが居りガバナースが居つて家庭で教育して居るのが多いのですがことにフランスはそのやうで、私が參りましたのは六月下旬でありましたが、すでに避暑に出かけた家庭が多く、一二私立の幼稚園を訪ねましたが、餘り人數も少しお目にかけれぬことはられたやうなわけでございます。師範學校の附屬、及び最も優良と認められてゐる公立幼稚園の二三を參觀いたしました。日本の現在と比較いたしましたもまた英米と比較しましても非常にちがつてゐるも

のでありました。まづそれが智的である事、と申
まして感覺練習に重きをおくといふ智育の基礎的
教育といふのでなく實際に文字を教へ數觀念を興
へることなのであります、保育室は全然日本の小
學校教室と同じであります、先生は教壇に立つ
て種々教へられるのであります、その時間も、三
十分位つゞきます、その教へ方は勿論幼兒の事
でありますから、種々工夫された玩具によつてな
されるのであります、私はその實によく工夫され
たこまかい玩具、智的玩具とも申したらよろし
いやうな、それ／＼先生の心血を注がれた獨特の
ものを見せられましたとき、その熱心と努力をし
て非常な興味を持つて發揮された先生方の獨創力
に深く感じさせられたのであります、その保育の
根本的理論なりまた方法なり、の批判は別といた
しまして、しかもそれが所謂終日保育で朝八時か
ら午後六時半まで一人の先生が四十人位の子供を

受持つ、可なりに負擔の重い先生方によつてなさ
れてゐる事は實に大したものだと思つたのであり
ます、大體フランス人の勤勉であることは、他の
種々の場合に感じた事でありますが先生方が如何
にもはちきれそうな元氣で、併も非常に質素で、
白粉つけたり口べにさしたりしてゐる先生は一人
も見ません、つまり氣どつて居られないのです、
子供の様子は、如何にも活氣に乏しく、顔色もよ
くない、おとなしすぎるといふ風に見ましたが勿
論家庭のよくない子供が多いのですから、それに
これは日本の大都市内の幼稚園も同様かもわかり
ませんが、外で遊ぶといつてもアスファルトのし
きつめられたせまい校庭に學校の兒童と一緒にな
つて、すみの方で小さくなつて遊ぶ位の事であり
まして、特に幼兒に適した遊具・運動具の備えも
なく砂場さへ見なかつたのであります、この點は
獨逸・伊太利・などの健康問題に就て拂はれてゐる

驚くべき注意と思ひ合せ、私共の他山の石として考慮すべき點と思ひます。

英國には六月末にまゐり、七月早々から暑中休日にならぬ先きにと、參觀を始めたのでありますが、最初に見ましたのは、ケント州のセブンノークスにあるランシングガレットの幼稚園であります。これは私立で約二十人の五歳六歳兒であります。極めて自由で子供の活氣があり活動的なのにすつかり嬉しくなりました。巴里の子供との相違を思ひました（しかし英國でも、ロンドンカウンテカンシルの仕事になつてゐる、公立風の小学校に附屬するものは、子供の數も百人以上であり、やはり不健康そうな顔をしてゐるのが多くあります。此處の保育の實際を一日見たのですが私立の幼稚園の實際として少し詳しく申上げて見やうと存じます、二十人が一室で先生が二人、此處は机の並べ方は學校式でありましたが極めてゆ

つくりとした並べ方の上に、自由に動かして居ります。タイムテーブルもちゃんときまつて居りますが、フランスほどに規則的にやつて居りません、一齊ではありませんが読み書き、數へ方を教へます。計畫的作業のやゝ完成に近づいたところまで面白く見ましたが、それは先生が田舎のけしきの水彩畫を書かれて壁にはつてあり、そのけしきを砂箱に表現しやうとしてゐるのであります、動物、樹木、草花などボール紙に幼兒が畫きそれをさりぬいて砂の上にたててあります、勿論山も川も出來色の砂なども使つてあるのです。二三人の子供がその繼續をして居りました、手技の時間が特に面白いと思ひました、非常に眼のあらひ麻布、日本の蚊帳位のものに、麻のやうに丈夫な一種の草の纖維をそめたものでぬいとりをするのですが、太い針で種々模様をぬふのです、それがお母さんの買物の袋になるのやハンドバックになるものまた

自分の學校用具入れになるのなど、皆目的をきめてたゞ製作慾の満足だけにとゞまらぬ大人の仕事と同じ仕事をしてゐるのですか、中には上靴をこしらへてゐる、テーパージョーといふテーパーの上にはさめないやうにかぶせるものをこしらへるなど、種々のものを如何にもたのしそうに一心に針を運ばせてゐますが、先生は眼がまわるようにいそがしく、子供のその仕事のしぶりは見てほ々々ましいほど大人ぼいのです、可なり充實した長い時間が續きホツとしたやうすて、ランチをとります、英國では（米國獨逸もさうでしたが）十時か十一時に皆各自家から持參した少量の菓子か果物をたべます、先生方もシツテングルームに集つて紅茶一ぱい或はミルク一ぱいにビスケット一つ位たべます、これは非常によい事でリフレッシュメントとして能率をあげる大切な日課にして居ります、これは私共もまねをしてよい事だと思ひます、

そのあとでミュージックバンドを觀せて貰ひました、その時の子供の喜びやうは大したものですが、八歳になる女兒がソールジャーパーバンドを指揮しましたが樂器はドラム・タンポリン・シンバル・トリアングル・ベル、ベルは四寸位の棒の兩端に小さい眞鍮の鈴のついたもの先生のピアノの伴奏でしたのです、ドラム二人、タンポリン四人、シンバル二人、トリアングル四人、ベル十人位、手にいつた指揮ぶり、各樂手の注意深い態度、實に面白い、聴くものの氣持から推して樂者の満足はこの遊びでのみえられるものではないかと思はれました。唱歌も同じ子供の指揮で歌ひましたが、この仕方は是非私共も試みたらよいと思ひました。

ロンドンの殆ど中心地ハイドパークの近くにあるミスロイズスクールの幼稚園を見て興味多く感じた點を申し上げます、普通ののき並の數階建の立派な建もの五歳六歳兒の組がそれで幼兒二十

五人主任の先生一人に補助三人、運動場といつてはアスファルトの屋外體操場が一つあるだけ、勿論廣い體操場はありますが、舊い式のタイムテーパーでやつて居ります、この主任が非常にまめな活動的人らしく見えましたが、自然觀察方面に苦心して居らるゝ様を實に感服しました、嬉しく見た事でございました、金魚、おたまじやくし、の飼つてある事は勿論、蛇の卵子が飼つてあるには驚きました、それ等の飼育箱にはこけがつき相當の食物がいてあるところから見ただとお義理に其處においてあるとは思はれませんでした、も一つ蟻の飼育箱を先生が見せて下さいましたが砂のはいつた薄べつたい極めて簡単な箱であります、赤蟻の一家族が飼育されて居ります、卵、蛹、働蟻、女王等立派に觀察されます、ハネーと水とを硝子板の蓋の隅から入れてやるといつて居られました、如何にも面白いと思ひました。案内してくれ

た英國婦人が日本へ買つて歸つては如何かと申しましたから、日本にも此種の研究されたものは澤山あると、實は餘りよく知りませんがに自尊心をきずつけられたやうな妙な氣持からそうは答へましたものゝ、これだけ努力してゐる幼稚園が東京にいくつあるか、自分など遠く及ばぬと思つて恥ぢた次第でございます。更にも一つ蛾の一種をキヤベツを與へて飼育し十個位、方錘形にした紙筒をつくりそれにいれて繭をつくらせたのがお部屋の隅の方にかけてありました。

終日保育の點からだけ見ても實に模範的になされてゐるミス、マクミランのナーセリースクールに就て一寸申上げます、いづれまた詳しくそのなされてゐる仕事の内容を書きたいと思ひますが、此處はナースのトレーニンクスクールが併置され一つの大きい組織をなして居りますが、預る幼兒は三歳から五歳、現在三百五十人、朝七時半から午

後五時半までといふ事であり、先生も可なり多敷練習生は水色の上着に水色の切で頭を掩ふて居ります、母親なり父なりに送られて来る幼児は朝食前のも後のもあります、私は早朝参りまして、その先生方の手にうけいられる様子から観たのであります、中には洗面うがひから髪の手いれまで先生にしていたゞくものがあります、さつぱりとアイロンのかゝつたガウンをさせられ同じ色のリボンまでつけていたゞく、(このガウンは毎日洗たくしたものをさせられる)、一人一組のけしやう道具を持たせませぬ、歯ブラシ、顔ふき、手ふき、うがひのカップがそれゞく印がついて一組づゝになつて居ります、おどきの出来てゐる子供、耳のわるい子供、眼のわるい子供の一々の手あて朝一しきり先生は非常に多忙であります、子供は血色がよくいきゞくとしてとても貧乏人の子供とは思はれませぬ、午前中幾つかの組にわかれてそ

れゞく住事をいたしますが此處でもモンテツソリの玩具に種々工夫を加へた實に澤山の、子供が落ちついて机に向つて遊ぶ玩具を見ました、詳しく申上ぐる時がありませんが、庭にも小鳥の行水の水いれが置いてあります。やゝ大きいのは鳩の爲め、小さいのは雀の爲め、五六羽仲よく行水してゐる鳩をながめてゐる小さい子供、のどかな風情これがロンドン貧民くつのナーセリースクールとは何としても見られませぬ、何とはなし胸一ぱいになりました、お晝の食事後、おひるねをし二時半に起き三時―四時半まで遊戯、手技をし五時十分から迎へに来る母親の手に渡すといふ事でありませぬ、食事のありさまその他細い點はまた申上ぐる機會があると存じます。

フロエベルエデュケーショナルインステテュート、これは女子師範大學の練習生の爲めの學校で、其處の幼稚園はまた代表的の英國で最も進歩的の

ものといはれやうと存じますが講演はいたしました
たが雑誌に書きますのはこの次にさせていたゞき
ます。

米國の事を申し上ぐる時間が完全になくなりま
したがやはり研究的に存分にやつて居りますのは
米國と存じます、實際に就ては最も多くを學びま
した、やはり普通は半日保育でありまして朝九時
から十二時まで（冬期）その間にランチをとりま
すが更に今日米國全體を通して必ず十五分乃至二
十分のレストタイムを置くことは、幼兒の保健上
非常に必要とされて居ります、部屋を暗くし、め
いゝ小さいしきものゝ上にねるのですが先生の
合圖のあるまで全く無言で居らねばなりません、
眼を閉ぢて居ります、餘り細い感覺練習に重さを
おかずごく、あらつぼく或幼稚園などごろゝと
大きい石ころの庭で遊ばせてゐるのなどもありま
した、活氣があり、そしてめいゝの充實してゐ

る幼稚園の生活は正しく新興國の子供等といふ感
じをいだかせました。

佛國の智的であり殆ど劃一的であるのにひさか
へ英國の實に個々獨自のゆき方で強い自信を持つ
て實際家の勵む點はさすがに英國と思はれます。
そして此點私共の學ぶべき處が多くありはします
まいか、米國はまた、學者の研究を尊重し常に實
際家と相まつて進むところ實によい點であると存
じます、盲目的に常に定見なく歩むのが一番とら
ざるところ、お互様に謙遜し然も自重して實際家
としての歩みを續けたいと存じます。



こ の 夏

倉 橋 惣 三

この夏も亦旅の夏であつた。

その旅は、七月下旬、文部省の講習と、佛教保育協會の講習とを東京で了つてから始まる。

會津若松

第一は會津若松。福島縣の主催で「幼兒保育」

(八月一日)。託兒所、殊に農繁期託兒所の施設を中心にして五時間。此の春以來の宿約を果した譯だ。元來、東北地方は、關西地方に比較して、兒童中心の社會施設があくれてゐる。もとより都市地方と農村地方とは、社會事業の性質を異にするが、近世的兒童愛護の必要は、どこにも、それ

の要求のある筈だ。福島縣社會課が、近く連續して、兒童保護を主題とする講習を開催してゐる努力は大に多としなければならぬ。

宿は東山温泉。雨に水量を増した溪聲が枕について、旅の第一夜らしく眠りは浅かつたが、朝、うす日さす明るい浴槽の、あの清澄な温泉は快かつた。若松の市街に接續すること斯くも近くして、しかも、斯くも山容の趣深きものあるは、さすがに此の温泉の有名な所以である。講習後、水谷社會課長及び、史蹟に精しい原田兼次、庄司達雄兩君の案内を煩はして、雨中飯盛山と舊城趾とを訪ふた。飯盛山は如何に長く余の心にあつたこ

とであらう。特に舊山道を選んで聊かたゞとも當時の幽草繁茂の趾を偲ぼうとした。白虎隊健兒の一隊が、折れた刀をつきく、辿つて來た山洞には、頃日來の強雨で混々たる濁水が渦巻き流れてゐた。山頂にある一列の墓石は、少年の墓らしく小さく、折からの雨にさびしくぬれてゐるが、一墓毎に彫られたる姓名と、十六歳、自刃の文字は、悲壯、壯烈の氣、四邊に迫つて、肅然として頭をさげしめざれば已まぬ。自刃の地點は、少しく離れたる山側、老松骨露はなる邊りにある。少年等の血走る視線は前方の天主閣に凝り、そこに炎々としてもえ上る火焰は、一圖に落城を思はしめ、一圖に殉死を決意せしめたのである。或者は從容として胸を開いた。或者は聲をあげて詩吟した。或者は相對座し互に手を執つて胸を突いた。死は易く、恨みは長し。一死君公に奉じて、一點の遲疑なし。親代の年齢にすれば、皆中學校の四年生

か、五年生か。日本武士は、實に、此の年齢にして既に毅然たる武士であつたのである。舊城趾は、今尙割然たる礎石の趾を存して、東道の諸君指呼して當時の狀を語ることに詳かである。成程、あの山から砲彈を浴せられては、如何に剛強會津城と雖も如何ともすることは出来なかつたに相違ない。その猛烈なる砲彈の跡は、今も老樹の幹に黒く残つてゐる。而してその時城中に立籠つてゐたものは誰か。城中の男子は殆んど皆四方の迎撃戰に赴いて、残るものは皆婦人であつたのである。しかも、その婦人達の奮闘、活躍、袂は斷り切り、髪は固く束ねて、連日連夜の激勞に、宇義通り骨を碎いたのである。實に之れ、武士女性の典型。委々懦夫を起たしむるものゝみ。古會津女子の名、何人も知らざるはないが、今、此の現地に立つて、感更に深いものがある。余は、番傘を肩にして、強雨の中に立つた。この數刻の感慨

を、永久に去り得ないであらう。且、この母、この女性にして、あの少年達があつた。古くして新らしき、家庭教育の原理に、余の思ひの深められて居たことも言ふまでもない。

千葉縣

若松を夜出發して、朝七時上野に着いて、八時の開講に充分間にあふ筈であつたのが、途中、水害の爲に郡山で汽車をとめられて、上野に着いたのが九時、そのため、東京昭和保姆養成所の講習(二日)に意外の迷惑をかけたことは、この夏の行動中唯一の齟齬であつた。殊に、あの帝國教育會館の講堂に、溢れる程の多數の講習員諸君が、遅れ講師を靜に待つてゐて下さつた熱心の光景には、足りない時間をほんとうに足りないと思はざるを得なかつたのである。

東京へ歸つて家へ立寄る暇もなかつたが、その

午後の兩國驛には、家族達が待ちうけてゐて、それから後の行を共にした。千葉縣東金に二日、同じく鴨川に三日。いづれも講演題目は「兒童心理」小學校の教員諸君を會員とする教育會の講習會であつた。家族をつれてゆくなどは、多少遊山的に見えて講習に相濟まぬよう之感もあるが、子供達を是非一度九十九里の壯觀に親ませ度いといふ豫ての親父心を、一寸此機會に實行した譯である。子供の一人は信州野尻湖へ學校から連れられて行つてゐる。二人の子どもは之れから、靜かな海岸へ行つて滞在することになつてゐる。しかし、そこには大きな波濤といふものがない。毎年の海水浴も、水泳本位に靜かな海ばかり選ぶ。しかも、たまには、でつかい大濤を見せないと、海洋の威嚴を忘れると困る。九十九里に、そいつを一つ見せてやつて貰ほうといふ譯である。但し、子ども等は、容易に泳げる海に早く行きたがつてゐるら

しい。親父といふものは、考へのある(！)親父といふものは、餘計のことを考へるものだ。

靜岡

千葉縣から引きかへして、靜岡へ行つた。縣保育會の講習(九、十、十一日)である。こゝの講習は之れで何度目であらうか。前に大阪へ毎年のように行つて居たのに次ぐ、なじみの多い講習會である。そして、一回毎に、發達充實してゆく實況を見ることは、この地の保育界の爲に眞によろこばしいことである。峯女子師範學校長始め幹部の位置にある諸君の熱心な努力を多としなければならぬと共に、縣の學務部當局の理解を感謝しなければならぬ。しかも、今が絶頂でも一段落でもない。之れからといふ發展の意氣研究の精進が、より多く心を強からしめる。余の例の日本保育地圖の中に彩られてゐる東海保育聯盟が成立するの

日、其の中堅として、うんと働いて貰はなければならぬのはこゝだ。

こゝで、保育談以外、余の最も傾聽した話題は、先般、聖上陛下が、地方民情御視察の思召を以て本縣に巡幸あらせられた時の御模様である。その御精勵、そのこまやかなる思召の數々、誠に恐懼にたえない次第であつた。縣民一般に及ぼしてゐる深甚の感激は鮮明に到處に見ることを得た。その際のことの中に、本縣保育界の耆宿宇式女史の、光榮ある特別拜謁のよろこびが、殊に一般の感佩を以て語られたことは勿論である。

宿は涼しい處といふ、會幹部の款待で興津に居た。いつ來て見ても大好きな處である。殊に、家族が滞在することになつてゐた靜かな海岸といふのが、余の講習とは無關係に、前からこの海岸に制定されてあつたので、夜は常に子ども等と共に遊んだ。毎年の講習旅行で、此の親父の一つの物

足りなさは子ども等と暫くでも離れてゐることだ。興津の三日間を特に喜んだ譯合ひが、あの風光の自然のみでなかつたことを、正直に斷はつて置かないと多少うそつきになる。又折角くの會幹部の苦心づかひに對して相濟まない。

豊橋

豊橋市立高等女學校校長山本嘉一君は、その同窓會の主催を以て、特に「家庭教育」の講習(十三、十四日)を計畫し、早くから其の約束をなして居つた。特に「家庭教育」を主題とする講習會は、從來多くない。一回の講話といふようのことは常にあるが、二日たりとも講習會の形を以て開催せられることは、絶無でなくとも、決して多いことではなかつた。しかも、文部省は今年から特に此の問題に力を入れて居り、余個人としても、今最も力を入れて居ることの一つだ。山本校長の招きに、新

らしき興味と熱意を以て應じたことはいふまでもない。静岡の講習の後直ぐ、豊橋に移つた。興津までわざわざ迎ひに来て呉れた山本氏は、家族も同伴してと言はれたが、家庭教育をそらまで甘くしてはならない。

余は、近年來、東京に於て、五十名前後を以てする、組織的な母の研究會を幾つか決行してゐる。數回乃至十回近くに亘る稍系統的な講義と共に、各家庭の實際問題に就て懇談し、相談してゆくのである。而して、現に我子の實際教育に直面せる、生々しい母の心の切實さに絶えず觸れもし感激もさせられてゐる。實に、母に語ることの貴重さは、余の今日の最も強い實感になつてゐるのである。豊橋の此の新らしい試みに對して、如何に興味を持つたかは問ふまでもない。又、集まられた聴講諸君の一人毎の熱心も非常のものであつたのを感じた。

山本氏は、家庭教育を重んずると共に、親父を喜ばすことにも極めて周到であつた。それは、二泊の滞在を二箇所に分けて、第一日は辨天島の丸文別荘に、第二日は蒲郡の常盤館に、東海の二名勝を満喫せしめて下さつた心遣ひに明らかである。あの解放的な辨天島の百パーセントの白砂青松。その青松に倚り寄ふてゐる、おばし、まに見た夕日の色。興津に、心から打とけた、なごやかな親しみをもつたのと相對して、濱名湖には、化粧した人を見るような、惚々しさを感じたと言つてよさそうだ。蒲郡は、その地域の風光と共に、常盤館そのものを以て著聞してゐるといつてよい。それ程に基模の大きい、設備とサービスの行き届いた旅館だ。余をして、うっかりすると、講習會講師たることを忘れさせて、ホテル經營法研究者でゝもありそうにならせる程感心させたといつていい。余のような旅行を多くするものは、自づから

旅館といふものに相當關心をもつようになる。行届かない宿では、旅なればこそと我慢もするが、旅なればこそ行届いた旅館はうれしいものだ。興津、濱名湖、蒲郡と、東海の三つの美しい海を、それ／＼最上の角度に於て樂しむことの出來たのは、確に此夏の愉快な收穫の一つだ。

海のことばかり言つたが、今年始めて竣工した豊川稻荷の新らしい殿堂にも詣でた。なんでも四十年餘の久しきに亙つて工をつゞけて居たものだといふことで、當て、子どもの時詣でた記憶とは、全く別の偉觀をなしてゐる。

山 口

この間、数日を東京の用事に費して、再び、講習行脚の人となり、十八日出發山口に向つた。山口縣主催の講習會で「幼兒保育概論」を講ずるのである(二十、二十一、二十二日)。

講習員は小學校低學年の擔任諸君と、幼稚園關係者諸君と、農繁期託兒所などの社會事業關係諸君であるが、特に余を喜び迎へられたのは山口縣保育會の諸君であつたと信じてよからう。余は、岡山縣保育會には屢々趣いた。それから、ずつと飛び惑えて九州には行つた。しかし、其間にある此山口縣と廣島縣の保育會には、今まで一度も機會がなかつたのである。(勿論個人的には懇意が少くなかつた)がそれで兩縣の諸君からも、屢々その機縣をつくつて會れといふ懇請であり、余も、心からそれを期して居たのであつた。それが、この夏に於て、兩縣とも實現せられるようになったのである。愉快といふべきである。わけても、山口縣に於ては、縣學務部が、直接の主催として、此の教育の爲に貴重な講習計畫の一部を割き與へられたことは、斯道の爲に、特筆して感謝してよいことと思ふ、同縣保育會の人々の熱心が此の勢

を促したものにも相違ないが、一つに縣當局の理解によるものであることは勿論である。其の地方の保育界が、熱心はあつても、未だ普及發展を充分してゐないといふ様の場合、此の山口縣の如き理解ある指導を興へられることは、我國の現状に於て最も切望にたえぬ處である。

講習期間中、山口縣保育會の總會が開かれ、理事眞澄超倫氏に促されて、そこでも一席の話をした。而して、その時、主題は「保姆の心づかひ」といふことで、若い保姆諸君への希望を述べたのであつたが、それよりも、余の特に力言したのは他にあつた。即ち、豫て、余の希望してゐる、中國保育聯盟の提唱と勸説であつた。このことに就て、余は相當以前から熱心に考へてゐる。全國保育會の聯關未だ極めて微弱なる今日に於て、先づ心須のことは全國各府縣に保育會の出來揃ふことであるが、それと相俟つて急務とするは、全國

を大別して、地方聯盟の出来ることである。以て、全國的聯盟の中間單位たらしむることである。之れが爲には、適當の機會、適當の人々とも相談してゐることであるが、その最も速に、實現の可能性を具してゐるものを、中國保育聯盟と思つてゐるのである。而して、その實現の爲には、中國に於て、最も早くから發展せる岡山縣保育會（吉備保育會）が、下働となり、先頭となり、姉妹關係にある、廣島縣保育會（藝備保育會）及び、山口縣保育會と、協力協同、相提携し、相切磋し、山陽道に一大保育團結をつくることにあると思ふのである。吉備保育會へはいつでも勸説の機會があるが、山口、廣島兩保育會を併せ訪ふことの出來たこの夏こそ、是非とも極力勸説いたして置かなければならぬ機會と信ずるといふ意からである。而して幸にして、諸君の充分の熱意ある諒解を得たと信ずることの出來たのは喜びにたえぬ。

一寸考へると、甚だ差出がましい餘計のこともうでもある。根が遠慮深い（？）余としては、差控へたいよりの氣もすることである。併し、之れは日本の保育界の大きな進展の爲に、是非とも實現させ度い正當の希望だと信ずるのである。若し夫れ、あの背椎山脈を隔つることに多少の不便はあるが、山陰の鳥取、島根兩縣の保育界が之れに參加して來られ得れば、（余は、此九月島根縣保育會に赴いて、之れを勸説する機會がある。）眞に全國の保育聯盟が完全に成立し得る譯だ。それも、伯備線の聯絡ある今日ちつとも困難なことではないつも思はれる。何せよ。その時は、どんなに愉快なことだらう。愉快のみならず、どんなに有意義なことだらう。中國保育聯盟の成立は、それが好範例となつて、續々と他の地方聯盟の機運を促進すると信ずるからである。そして、全日本保育聯盟の基礎を確立すると信ずるからである。保育

聯盟につき、之れ迄いろんな形の夢を夢にして來た後で、今余の確實性を以て所期して居る、之れが一つの期待なのである。

こんなことを考へて凝つて來る肩を毎日やはらげて呉れたのは湯田の温泉である。湯田の温泉は新らしい都市擴張の中に編入せられて、今では山口市の一部といふことになつてゐるが、古く著聞し、彼の七卿落でも有名の處である。山ではないが、名の通り涼風青田を吹き拂ふ靜かな温泉である。殊に余の宿泊した室は、その涼風が不斷に流れ込む廣い二階で、講習の後の午後は、その風と、清澄な温泉とに閑を擅にした。加ふるに、縣立圖書館から提供を乞ふた防長史料に關する幾多の圖書は、いつも、夜風にあふらるゝ白蚊帳の中、枕燈の下、思はず更くるまで好讀書生たらしめて呉れた。中にも、佐久間久吉氏編の「防長史綱」の識と筆と、天野御民氏編述杉民治翁見聞の

松下村塾零話の質と實と、いづれも小さい冊子ながら、余の爲に太だ有益のものであつた。

講習中、白銀市長の招宴をうけたが、氏は、陽明學者として土地に聞ゆる人である。講習終了の午後は、山東縣視學の案内を煩はして、市中の史蹟を視た。中にも大内氏時代の古き、り、こう寺の五重の塔の古寂、我國最初の布教師たるフランシスザビエル紀念塔の聖寂、一つは低個、一つは仰睥、共にいつまでも其の場を去り難さを覺えしめた。

萩

夏期の講習旅行日程は、休暇の日限の關係上、自から日の餘裕といふものをとれないが常である。それを、此の山口と、次の三原との間に豫め二日の餘裕をとつて置いた。あこがれの萩を訪はんが爲である。吉田松蔭先生の萩を訪ふて、久し

き宿望を果さんが爲である。

二十三日曇。山口縣保育會の好意により萩まで
の自働車を提供せられ、縣學務部幼稚園掛たる池
田秀夫君特に東道の役を以て同乗。朝八時半宿を
出發。途に、先づ秋芳洞を過ぎることゝした。
途、約一時間。洞口前の茶屋の少憩、裾短かな浴
衣と、草履とに更へ、案内者に從つて洞内へ進ん
だ。何事も實際は期待に背くのが常である世に、
之れはまた、何んたる豫想以上であらう。以上と
いふも足りない。殆んど超豫想とは此のことだ。
しかも、人間の想像力が小さいからではなく、自
然の偉巧の餘りに驚異すべきためだ。奥行き約二
千米、洞窟内に空濶で、最も廣い場所は、廣さ八
十餘米、高さ三十餘米もある。而して、その底に
は一大溪流が、或は瀑布となり、急瀬となり、深
淵となつて漲り流れて居る。大體は、その水に架
せる狭棧に沿ふて進むのであるが、或る箇所は、

渡舟に棹して渡るところさへある。奇岩、奇床、
天井からは多數の怪異なる鐘乳石が垂下し、黄金
柱と稱するものゝ如きは、高さ八米、周圍三米の
偉觀で、仰いで、たゞ愕然たるの外はない。而し
て、之れがすべて地下である。余は、遺憾ながら
地質の理に昏い。驚異をたゞ驚異とするの他はな
いが、それにしても驚異以上である。洞内には各
所に電燈が點ぜられて隅々明らかであるが、之れ
は、今上陛下、皇太子として御視察遊ばされた時
からのことで、其の以前は眞の闇、松火を點じて
導き入れたものだ。うだ。その頃の神祕は、あそ
ろしいばかりであつたといふ。

洞を出で、(洞内一時間半餘を要す)再び車上の
人となり、一路、萩町に向ふ。約二時間、愈々則
町に入つた。

町役場には既に、史跡に精しき藤本瀧江翁が今
日の説明者として待ち受けて居られ、特に町長の

好意による自働車に、池田氏も同乗、何は兎もあれ、第一に松下村塾の跡に急いだ。先づ松蔭神社に參詣。松下村塾は、そのすぐ後ろにある。思へば、東京府立一中の三年生の時である。徳富蘇峯氏の吉田松蔭傳を讀んで少年の心に、此の偉人に對する尊崇の念を喚起せられて以來、松下村塾は一つの聖地として余の巡禮豫定目錄中の最も重要なものとなつたのである。その後、松蔭先生に對する多少の研究を進め、殊に教育史を講じたりするようになったのは、益々その巡禮心を強められて居たのである。昨夏も山口縣の招きを受けて、寶積の講習に來た時、足此の縣に入るを機會として宿望を達せんとしたが、遂に時間のゆるしを得ず、遺憾之れに過ぎずとしたが、今日こそは茲に此の聖地に立つて居るのである。何たる簡素、隣下の物置に疊を入れて、先づ塾生を迎へた最初の一室には、先生の使用せられた、細長い木机があ

る。たゞ一枚の粗板に脚を附したようなものである。塾生等と共に、石を運び、壁をつけて増築せられた、あの有名な室がその隣に接する。塾生漸く多さを加へ、先生が席を移されたといふ二階は二階といふよりは屋根裏である。全屋、數十歩にして一周することが出來よう。しかも、こゝに、明治維新の魂は火の如く動うたのである。若き先生は、或は先生自身より年長なる、或は年少なる、藩中、上下の俊英青少年と起臥を共にして、國士の教育を施されたのである。室内の壁間には、數個の額が掲げてあつて、塾生高杉晋作、塾生品川彌次郎、塾生伊藤博文、塾生野村靖、塾生山縣有朋等の名が記されてゐる。塾の後ろは、先生の父母の家がある。そこに幽閑の室があり、彼の米を搗きつゝ、經史を講ぜられた米搗場がある。その米搗道具と上から吊し下げた書見臺とは、今は別にその側に移して、丁寧に保存せられてゐ

三 原

る。余は、こゝに、更めてその當時を詳説しない。實に恭しく類づくの心を以て、それ等の遺跡と遺品とを看た。更に、先生の遺品を蒐めたる庫は、實に先生の精魂の尊き血晶のみのである。感慨盡くる處を知らない。

松蔭先生遺跡を辭して、古き新らしき史跡の數々を歴訪した。伊藤公の舊宅を周り、明倫堂の跡に立ち、その他茲に擧ぐべく餘りに多く、餘りに切實なる史跡を見、祕話を聞いたのである。而して萩に對する余の記憶の中心をなすものは、矢張り、久しき懐れの松下村塾である。同じく余の辿禮目錄中の一つであつたスキスのノイホンは余にペスタロッチを焼きつけた。それと同様に此の松下村塾は、余に松蔭先生を刻印したともいつてよい。この夏、余の精神にとつての最大の收穫は、實に萩の一日であつたのである。

翌二十四日惜しき萩を去つて、廣島縣三原に到つた。道順からいへば逆路である。藝備保育會を訪ふことは、昨年、保育會が出来て以來の宿志であつた。講習(二十五、二十六日)に於ては、低學年教育の問題を交へ講じたが、會の始めに當つて先づ力言したことは、山口縣保育會に語つたと同様の、中國保育聯盟の勸説であつた。副會長たる山崎女子師範學校長、同附屬主事宮川氏を始め、會幹部諸君にも別に力説して、多大の賛意を得た。殊に、岡山から、折井彌留枝氏外數名の保姆諸君が、特に此の講習に出席する爲に來て居るといふ、全く思ひかけぬ機會を捉へて、吉備保育會への勸説を、繰りかへしくことづけ得たのは意外の幸であつた。

三原の岩井豐夫君は書信を通じて、久しき舊識

の間である。特に好意を以て提供せられた三原警察署のランチに同乗して、海上二里双鷺島に村長高原隆三氏を訪ひ、また、同氏の盡力による私立龜山幼稚園を訪ふた。高原氏は島第一の舊家、當主隆三氏は全島五百餘戸の生産的福祉と精神的向上との爲に、常に意を竭し、私財を投じて惜しむなき人。その私邸の座敷には、書架に大西郷全集あり、齋藤茂吉氏の新らしい歌集などあるを見た。有徳平和なる島の生活が床しい。幼稚園は同島の龜山神社神官たる同性高原章氏夫妻の經營によるもの、同部落内（島は三部落に分れてゐる）の幼兒は殆んど全部入園して居るといふ。保育料なし、謝禮の如きも、各家庭の隨意にまかされてゐる。全く篤志幼稚園である。斯くの如き小島に、幼稚園のあるのが既に稀であるのに、假令神社附設でないとしても神道に屬する幼稚園の經營は、恐らく他に多くあるまい。

島を辭して歸らんとした時、干潮でランチが動かない。徐ろに満潮を待つ間、磯の岩に踞して、島の諸君と共に三原銘酒酔心の盃を嘗めて居ると、夕闇漸く迫り來り、沖より歸る數十艘の藻刈舟、對岸の島に峙を求むる群雀の聲、靜穩なる瀬戸内海の夕べは更に靜穩に、詩趣、歌にもならず、胸に漂ひ充つるを覺えた。

廣 島

廣島市に開催せられた、縣主催の講習（二十七、二十八、二十九日）は、豊橋に於けるものと同じく、特に「家庭教育を主題とするものであつた。而して、聽講主體は補習教育専任女教員諸君といふことであつたが、此の際之れを一般婦人諸君にも公開せらるゝこととなり、家庭婦人諸君が、寧ろより多數に來聽せられたことは、余の講演に母性の溫味を浴ふる上に、一層の適切さを加へた感

があつた。それにしても、縣學務部が、自ら「家庭教育」の講習を開催せられたことは、恐らくや天下に先んずるものとして斯道の爲に大に徳とななければならぬ。殊に郡山學務課長、野田教育主事、その他當局諸君の斯道に對する熱心なる態度は、聽講員諸君の熱心と共に特筆すべく、此の講習を序開きともして、將來計畫せらるべき同縣の「家庭教育」促進の前途に多大の希望と期待とを感ぜしむるものがあつた。

親友津山教授は一日余を促して、市内を見物し、且、嚴島快遊の好意を與へて呉れた。鳥居もよし、宮も美し、丘もよし、更に紅葉谷公園内岩惣旅館の小亭、灯の映つる溪流に臨んで、遠慮のない晚餐にくつすがせて貰つた快適は、八月一ぱいの旅の終りの慰勞として、眞に嬉しいものであつた。此小亭、頗る水石の趣を凝らし、島に居て海を見ず、たゞ山深さを思はせる趣向、心にくい

限りだ。

第二日、野田氏の案内をうけて、舊大本營の内部を拜觀し、特に 照憲皇太后陛下の御座所たりし建物をも拜觀することが出來た。師團司令部と木造無裝飾の建築、兵士の居る聯隊の建物と些の變りもない。その内に、大本營の全部があり、畏くも八ヶ月に亘る玉座があつたのである。寒冬深夜、小さき御火鉢一つに、戦地の士卒と戦苦を煩たせ給ひしも此處である。御更衣の室には、御衣桁として細き素竹の一本、木壁に沿ふて取りつけられてあるのが、其のまゝ拜せられる。頭の自ら垂るゝを禁じ難い。

誠に、却て畏れ多い申しようかも知れないが、一夏の講習位、勞を語つては相濟まぬと思はざるを得ぬのである。

第三日講習終了後、午後廣島出發、三十日朝東京驛著。斯くて八月を終り、九月に入つて更に、

六日濱田町に開かるゝ島根縣保育會總會へ行くことになつてゐる。

終りに各地諸君の高誼を謝し、御健康を祈りて筆を擱く。(昭和五年八月三十一日)

濱 田

山陰の秋は早い。月夜をおそく濱田に着いて、川沿ひの宿の三階に、先づ其の快い清涼を感じることが出来た。

汽車がトンネルを出て、究如、安道湖岸へ来た時である。夕日あかく流るゝ湖上の美には、自然といふよりも人間の美があつた。今まで海を見て来た目が、急に湖を見たからであらうが、その鏡面に、なんと頬紅の滑かなことよ。わけて、こゝは、去年の夏の思ひ出の、まだ新しい處である。一夕は雨、一夕は晴、あつらへ向きの興趣をほしいまゝに味はせて呉れた松江の臨水旅館に

は、今にも名残のつきぬ思ひがする。その島根縣の保育會は今年も再び招かれたのである。京都濱田間一百有餘のトンネルには相當に口を閉ぢさせられるが、此の保育會への私の心理距離は極く近
す。

島根縣保育會總會は、松江と濱田とが一年交替に開催地になる。今年は濱田の番なのである。停車場には、辻女子師範學校長、片寄附屬主事、幼稚園の諸君に出迎へられ、宿では總會出席の爲來泊せられた松江の山口師範學校長に會ふことが出来た。山口校長には、昨年の御歡待に對して、一年振りのお禮を繰りかへした。

女子師範に開かれた總會(九月六日)は、今丁度再振興の機に熟してゐる勢を示した。松江の富田さんが病氣の爲缺席せられたのは遺憾であつたが、同じく松江の吉岡さん、濱田の藤村さんを始め、保母諸君の一人々々に、少數ながら、裏日本保育

界を負つて立たうとする卓創な意氣込みの見えたのは嬉しかつた。午後「幼稚園保育項目」に就て講演。幹部の人々には、例の中國保育聯盟のことについ勸説し、共鳴を得た。

講演後、片寄主事の御案内で、兩師範學校長と共に、町の名所をドライブした。栗島海岸の奇勝瀬戸が濱、外の浦の濃い潮の色、白波立つ外洋の壯觀、萩の海と同じく、「北」といふものを強く感じさせられる氣がした。栗島公園にある烈女お宗の墓は、芝居の鏡山で有名なお初の墓である。その鏡山は、町に接する山の名であり、その山の松林の中に、尾上の塚のあることも、こゝへ來て初めて知つたことである。幕政時代の義人、通稱芋代官の記念像は、町に近い丘の上にある。此の地方に芋を植えることを教へたのも此人であり、殊に大飢饉に際して、人民の急を救ふ爲に、獨斷を以て幕府の米庫を開くの義舉に出て、その責に

任じて賸腹したのも此人である。その他、代官として仁政雨の如く、今日尙、石州の人をして、普くその恩を感謝せしめて居る。石見の國到る處に此の人の記念碑を見るといふことである。その義貴ぶべし、又、永く恩を忘れざるの心も貴びべしであると思つた。

翌七日、好晴朗々、濱田名物と云つてもいい程の澤山の鳶が、悠揚として空を舞つてゐる。午前女子師範講堂に開かれた家庭教育講演會は、日曜の午前といふに、思ひかけぬ多數の集會で、婦人會長田邊老女史の墨鏢と共に、石見女子全般の堅實味に、敬意を感じしめ、語るもの先づ愉快であつた。殊に、此の會後、直に發議する人あり、直に賛同する人あり、特に家庭教育の研究を目的とする熱心なる母の會の成立したといふことを後に聽いて、欣快といふよりも感謝の至りとした。

その午後、濱田を辭し、松江まで辻校長と同乘

あとは京都まで、がら空寝臺車の中に、ひとりぼ
外、月晝の如し。その光の中に浮ぶ伯耆大山の雄
つちの旅客とこそはなつたりにけれえ——。(窓
姿を眺めた後、車中記す。)

後藤 眞造 氏 著

「フレイベル研究」

倉 橋 惣 三

我國によきフレイベル研究書のないことは、幼稚園研究者にとつてといふよりも、更に廣く教育の學徒にとつて、從來の大きな缺陷であつた。フレイベルの研究は、今日殊に其の重要性を加へて來たのであつて、その爲に、適當なる研究書の出づることは、誰れもが待ち望んでゐたところである。後藤氏の新著が此時に出たことは、斯の道の爲に最も喜びにたえない。著者の研究は、フレイベルの傳記と主著とを精讀して、その解説、紹介に於て忠實を極めてゐる。所謂評傳の名に於て、斷片的感想を語つたり、抄録の名に於て部分的拔書さを試みたりする著書とは、全く別である。讀者は此の著者の忠實なる紹介によつて、フレイベルを、先づその眞正面に於て知ることが出來ると信ずる。フレイベルにも側面的研究があるがそれは、正面の確實な捕捉を得た後のことである。今日、時にフレイベルを云々する人々にさへ缺けてゐる忠實な知識は、此著によつて初めて十分に補はれ得るであらう。又それを希望して已まぬのである。

殊に、我國の幼稚園教育界としては、此の早く存在しなければならなかつた必須の文献が、茲に初めて具へられたことに就て、著者に深き感謝を禁ずることが出來ない。

(東京市京橋區目黒書店 定價金貳圓)

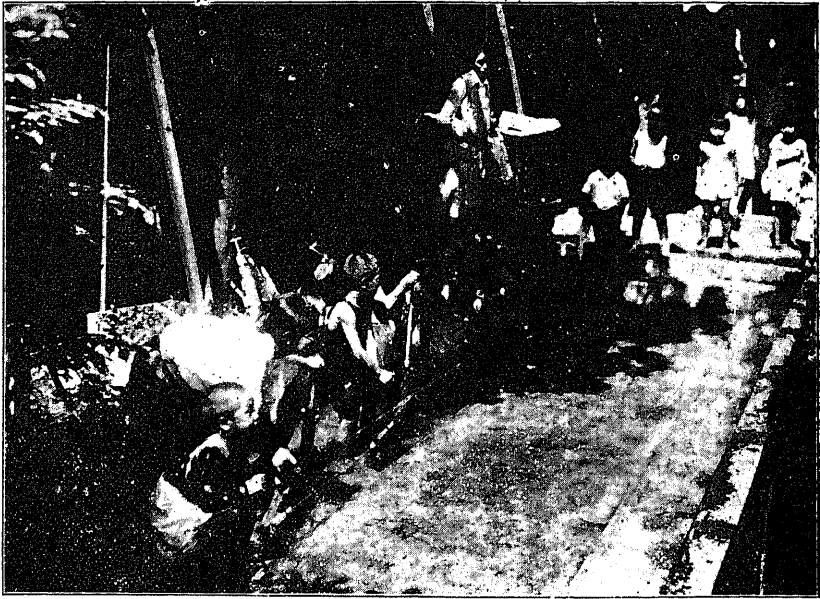
麴町區 夏の幼稚園所感 教育會主催

檜 山 京

六四

醫學界の世界的權威者である土肥慶藏博士を會長とする麴町區教育會では去る七月二十一日から八月二十日まで「夏の幼稚園」を開催された。應募幼兒數がどうかしら？ この炎暑、しかも長時間（八時から三時まで）訓練のない子等の保育に當る人があるかしら？ 今一つは經費問題。この三つは「夏の幼稚園」とつては扇の要の様なものであつた。經費問題は幹部の御努力に依て多額の寄附に依り解決され、僅三日間の締切で募集した幼兒は豫定々員を越す事五十餘名といふ數を示し、奉仕的保母の仕事喜んで引受けられた若い保母諸姉十數名に及んだ。この中四名は期間中日の缺勤もなく又一保母氏は人生最大の悲に（父君逝去）遇はれたにもかゝらず忌引後閉園まで涙ぐましい努力をつとけられた。そして思ひがけない事には八月三十日三十一日の様な強風雨の日却て幼兒の出席は平常よりも多い組さへあつた。この雨の一日岸邊先生がお訪問下つて、子供達があ家へ歸るのを忘れる程面白いお話を下さつた。又本校の先生は宿直の日にもさうでない日も

三脚とカメラを運んで、時には上六のプールへ、時には日比谷まで子等の楽しい日々の姿を永く止める爲に、お盡し下つた。すべてが子等への愛の奉仕、可愛らしいといふまななかではない、幼き生命を生命で守る、汗にまみれ涙にぬれた、必死の強い愛であつた。多くの子等を連れて車道を横断する時、交通巡査の代りに兩手をあげて立つ保母はまづ我生命を子等の前に楯にした。午後一時、午睡の時であつた、こめかみに流れる汗を拭きもせず年少のSちゃんを横抱きにして寢就かせて居た若いA保母、お祖母さんが見えたとして急にだてをこねるIちゃんや年少の弟を盛にいぢめてあばれるMさん、を制さうとして小さい手を握たまゝ無言で落涙。若き夏の日を、海にも山にも遠ざかつて、只管子等の汗とざわめきの中に甲斐なく、愉快に立ち働かれた保母諸姉に更めて無限の感謝を贈る。そして私もこの愉快な貴い子等への愛の表現である夏の生活にお仲間入りさせて頂いた事を心から嬉しく思ふ。詳しい事はいづれ稿を改めて御報告申上ませう。（九月はじめ）



水 鐵 砲

高く高く、二階の窓へ、三階へ、

屋上へ まつすぐ とどけ とどけ。

子「先生 鐵砲がこはれちやつた……」

姆「さあ、はめたから大丈夫、ほーうら」

シユツ シユツ

空に投げらる銀線、直線、曲線入交り

「僕の一等高く行くよ、いゝかい君、

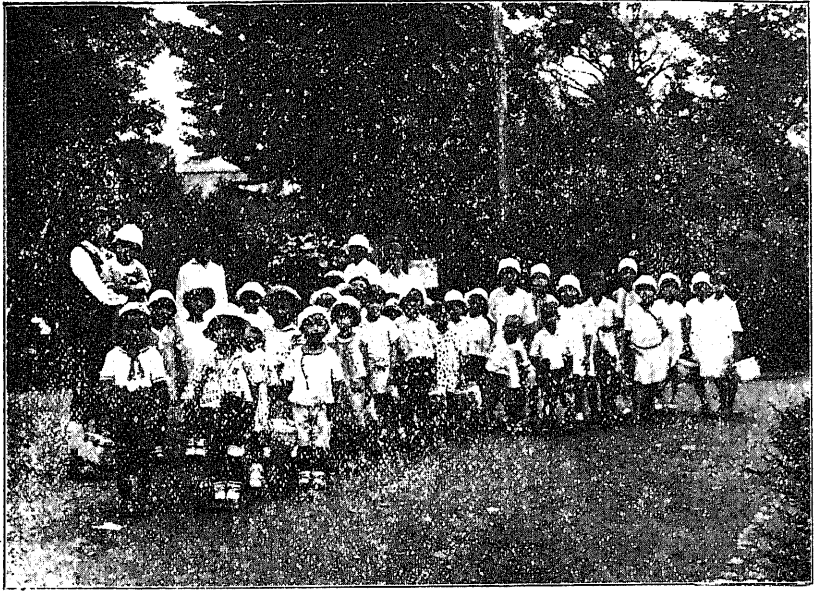
ホーラ」

「ミンく〜」 「ヤツ蟬だ 蟬だ この木だ」

「水かけようか」 「ウシかけよう」

蟬にあびせる 水つぶて。

午後二時の陽が かゝやかに。



公園のかへり道

あかしやの花がこぼれるプールで。よく面倒をみて下さった公園の小母さん、草地の木のままでお茶をはこんで下さった親切な公園のお兄さん達、それからお池の鯉にも、羊にも、熊にも、

「サヨウナラ」「マタキマシヨウ」

最年少のM子さんが何か云ひながら足にまつはる。

「あんよがいたい」んですつて、乗合自働車が皆をお迎ひに来てく
れてゐる霞門までの間、では一寸と抱き上たら、日先生が、

「ア、一寸まつて、そのまゝ」

「カチャツ」



午 睡

組の室にうつつてから皆よく眠る。

熟睡したら、あをむけにして、手足を真直にのばす、

お腹へだけ毛布をかける。

K組の室、ふざげやのSちゃんとT若、

ころがり合つてはキヤツ／＼とさわぐ。場所を別にしようとする

とどうしても、何時の間にか二人ならんでしまふ、

鼻をつまんだり、耳を引ばつたり、

「ちや、眠りつこ、ね、どつちか先に眠たものが、さきに水遊び、

ね「一、二、三」



大自然の乳房から

水谷年恵子

六八

赤ちゃんを産んだお母さんの体内から、世にも
おいしいお乳が出る。そのお乳が此の世のどんな
養分よりも、一番赤ちゃんの身体にはよい滋養に
なる。考へて見ると不思議なことである。慈愛の
権化のお母さんから、此の上もないおいしい滋乳
が、赤ちゃんの爲に湧出る。お母さんに抱かれて、
そのお乳を吸つて、赤ちゃんは伸びく／＼と育つて
行く、何と言ふ微妙な天の攝理であらう。

お母さんのお乳に比べたいものが一つある。そ
れは果物である。大地の限りない慈しみが、えも
言はれぬ甘味と、したゝるやうな色艶とを持つた
果物となつて人の世に現はれるやうに思はれる。

うまい葡萄——うまい水蜜桃——うまい蜜柑——
うまい林檎——みんな、みんな大地の乳房から滾
々と湧出す滋乳である、滋味である。口に含んで
嚙下す時、大地の無量の愛が胸に通ひ、大自然の
新鮮な生命が心に泌みる。

赤ちゃんがお母さんに抱かれてお乳を飲む時、
限りなき安らかさと、限りなき喜びとにしたると
同様に、大地の懐に這入つて、みづ／＼しい果物
を味ふ時、人は名状しがたい快さと楽しさとに満
たされるのを覚えるのである。太古には木の實を
食べて生命を全うした者が少くなかつたであら
う。今も世界の何處かには果物を食べて生きてゐ

る人があるであらう。穢れの無い、偽りの無い大地といふ慈母の體內から、ほとばしり出る滋乳によつて生命を育まれる時、人は大自然の赤ん坊となるのである。

紫色に熟した葡萄の房が、千房八千房垂れさがつた葡萄棚の下で、大地の乳房から、自然の甘露を飲む者は幸である。くれなゐに輝く林檎の、枝もたわわに連り満ちた大樹に攀ぢのぼつて、大地の體內から湧出る自然の滋味を味ふ者は幸である。

亭々と聳えてみ空の星を掃ふ椰子の樹のほとりに、大いなるその實を割つて、自然の母のかんばしい乳を飲む者は何と言ふ幸福者であらう。甘い香のたゞよふ野の懷に坐して、メロンの滴る慈味に舌鼓打つ者は何といふ幸福者であらう。

ドン底生活に在る人々の兒等を教へる先生から聞いた話がある。自分の父の姓を知らず、朝飯も

書飯も食はずに青ざめてゐる子供等が、學校で時に御馳走になることがある。彼等が貰つて一番喜ぶ食べ物は何であらうか、それは白い御飯でもなく、甘い菓子でもなくて、美しい色をした果物であるといふ。

黄金色に輝く蜜柑の一つづゝか、又は紅に染まつた林檎の一つづゝをその子供等に與へて見よ、子供等の顔には忽ち天使に見るやうな喜びの色が現はれるであらう。子供等はその蜜柑を又は林檎を、掌に載せて、と見、かう見、撫で、さすり、香を嗅ぎ、果皮を嘗め、愛撫に愛撫を重ねて、なほかつ飽く事を知らない。その果皮を剥く時は又一層樂しみ樂しんで、少しづゝ徐々に剝いて、その果物から受ける和やかな、豊かなほがらかな喜びにしたるといふことである。

出来ることなら、その子供等を甲斐の葡萄畑へ伴れて行つてやりたいものである。何萬房となく

山口縣保育會第五回總會

山口市に於て、左記日程通り開催

第一日 八月二十日 午前中 縣設講習會聽講 東京女子師範學校教授倉橋惣三先生

午後一時ヨリ 園長會議

第二日 八月二十一日 午前中 並に保母唱歌遊戯研究

午後一時ヨリ 總會

第三日 八月二十二日 午前中 國歌齊唱

午後一時ヨリ 勸語拜讀

第四日 會務報告

第五日 縣學務則示

第六日 市長挨拶

第七日 講演 倉橋惣三先生

第八日 研究發表

第九日 協賛

第十日 協賛

第十一日 協賛

第十二日 協賛

第十三日 協賛

第十四日 協賛

第十五日 協賛

第十六日 協賛

第十七日 協賛

第十八日 協賛

第十九日 協賛

第二十日 協賛

垂れた葡萄を思ふがまゝに採つて紫に匂ふつぶらな珠から、大地の母の甘い乳を思ふ存分吸はせてやりたい。出来ることなら、その子供等をキャリホルニヤのオレンヂ畑へ連れて行つてやりたいものである。幾億となく實つたオレンヂを勝手にいいで、夕陽の色に熏る玉から自然の母のうまい乳を思ふ存分飲ませてやりたい。

かういふ特別な子供に限らず、地上のあらゆる子供は、母の乳を慕ひ求めるやうに、うるはしい果物に欽慕の情を寄せるに違ひない。子供のある家には果樹のあることが望ましいことであらう。子供の集まる幼稚園には、色々の果樹の植ゑられることが願はしい事ではあるまいか。



- 研究發表題 柳井幼稚園
- イ、觀察ノ指導方法ニ就テ 柳井幼稚園
- イ、幼稚園ニ於テ遊戯チナサメ園兒ノ取扱方法承リタシ 大島幼稚園
- ロ、幼兒期ノ金錢教育ニ關スル御意見承リタシ 柳井幼稚園
- ハ、活潑勝氣ナル兒童ト怯懦内氣ナル兒童トノ指導方法ニ就テ承リタシ 柳井幼稚園
- ニ、幼稚園ニ於テ畫キ方如何ナル程度ニ指導イタサル、カ承リタシ 柳井幼稚園

日比谷公園に於ける東京市番町

幼稚園暑中休み中の園外保育を見て

氏 原 鈍

八月九日 日比谷公園の兒童遊戯場のベンチに、三十餘名の幼兒の息ひて、各兒辨當入の小バスケットを傍らに置き或は食し或は食し終りてお茶をのむ者もあり、之れを世話する洋装の若き婦人三人と青年の一人あり、此の炎暑の折柄、何れよりの遠足者なるかを、奇異の思ひを抱いて注視して傍らに近付くに、突然洋装婦人の、私の前に挨拶せらるるを見れば、番町幼稚園の首席保母檜山先生なるに驚けり。而して其事情を求るに、夏休み中幼兒の家庭で徒然に過ごさんと思ひ、試みに園兒の希望者を目

々順番に、三十餘名を引率して、日比谷公園又は靖國神社境内に、清らかなる空氣の呼吸に、身體の運動を爲すと共に、自然に接觸をなさしめん爲に、夏休み中の園外保育をなすものなるを聴き、此炎暑中にも拘はらず、此特志の事業を感激して措く能はざる次第で御座います。

此往復自動車の費用は、一人十七錢なり。辨當は暑きの折柄なれば、一切鹽おむすびとなすも、中にはのり巻きすしを持參する者もあり、此舉を幸にして家庭で大に喜ばれ一方職員諸氏の熱心從事せらるるを得て好都合に過ごす事を喜ぶと、併し此園外保育の文部省保育夏期講習會時日と差合ひて出願しながらも受講出來ざりし事の残念なりと。此夏休み中の幼兒の爲めに、幼稚園を開放して、慰安する園あるを知るも、斯の番町幼稚園の如き、日日變化ある自然界に接觸せしむる、生活を付與せる、暑中の園外保育の美舉は未だ曾てきかざる事なり此の經驗の狀況は是非本誌上に掲載せられ様、檜山氏に御勧め致して置きました。茲に其概要を記して、檜山氏初め他の職員諸氏の暑中の折柄の御骨折を感謝す。



きり
がみ

七匹の子山羊

及川ふみ

楽しい夏の休みもすぎました。しばらくの間は可愛らしい幼児の事も忘れてしまふほどすっかり幼稚園のことから遠ざかつておりました。新しい學期がはじまると幼稚園の何もかもが新しいもの珍らしいものゝ様に思はれる事ぞせう。秋風爽かなこのよい季節に新鮮な氣持で思ふ存分遊びたいものです。

七匹の子山羊のお話は面白い。幼児に聽かせるお話の中の「羊と狼」のお話です。

◇

或る所に、お母さんの山羊と可愛らしい子山羊が七匹居りました。或時お母さんは子供の山羊に「お母さんはこれからお前達のお馳走を買ひに行

つて来るから皆仲よくしてお留守をしてゐらつしやい、もしかするとあの悪い狼がお母さんの眞似をしてお前達食べに来るかもしれないからよく氣をつけてゐらつしやい。狼の聲はお母さんの聲の様に優しくなくて太くて、きたなくて、こわい聲ですよ。それに毛の色が眞黒だし戸を叩くのも亂暴なのだから氣をつけて居るとよくわかりますよ。よく戸をしめて氣をつけてゐらつしやい。「えゝわかりました。行つていらつしやい」子山羊たちはみんな仲よくして鬼ごつこをしたり、駈つこをしたり大さわぎで遊んで居りました。間もなくドンドン、戸をたたいて、「お母さんが今歸つたよ。おあけなさい。」あゝお母さんのおか

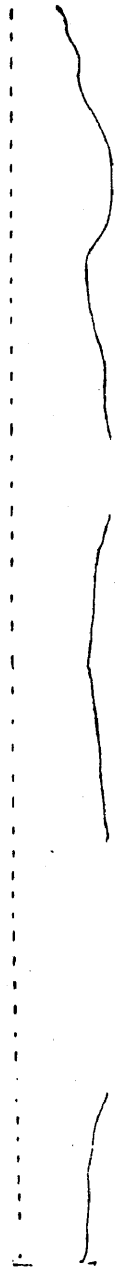
へりだ、うれしいうれしい」と小さい羊が戸をあけやうとしたら兄さんの山羊がこれを止めて「おまちなさいおまちなさい、あれはちがひますよ」また ドンドン「お母さんだよ、早くあけて下さい」兄さんの山羊は「お母さんの聲はそんなきたない聲ぢやありませんよ、そんなに、ドンドン 戸なんかたゝきませんよ」狼は「これはしくじつたどうしたものだらう。よし／＼薬屋へいつて一つの聲のよくなる薬をのんでこやう」と大急ぎで薬屋へいつて聲のよくなる薬を買つて飲みました。そして又大急ぎで山羊のお家の前に参りました。今度は氣をつけて ドンドン「お母さんが今歸つたよ、早くあけて頂戴な」と小さい山羊がまた止めて「おまちなさい、聲は似てゐるけれどもうちの母さんの毛の色はそんなに黒くありませんよ」

狼は「おや／＼利口な山羊たちだこと、またし

くじつた、どれ／＼、一つ粉屋にでも行つて毛を白くしませう」と大急ぎで粉屋へまゐりました。そこで頼んで、身體中に粉をふつてもらひました。「これで安心だ、眞白になつた。今度こそは」と狼は山羊のお家へまゐりました。

トントントン「お母さんが今歸つたよ、早くあけて下さい。山羊たちは「今度こそは、聲もやさしい毛の色も眞白だ」と云つて喜んで戸をあけましたら大變です。こわい／＼さつきの狼がウーと云つてとびこみました。そして逃げまはる山羊の子供をバクリバクリとみんなのんでしまひました。たつた一匹 時計のかげに、小さくなつてかくれて居るの丈けは探しても見つからなかつたものと見えて「おゝ甘しかつた。とうとう、みんな食べてしまつた」と云つてのそりのそりと出て行つてしまひました。

残つた一匹の子山羊は、こわくてこわくてぶるぶるふるへて居りますと今度はほんとお母さん



木 嶽

木

木

木

木

木

羊山子，匹一

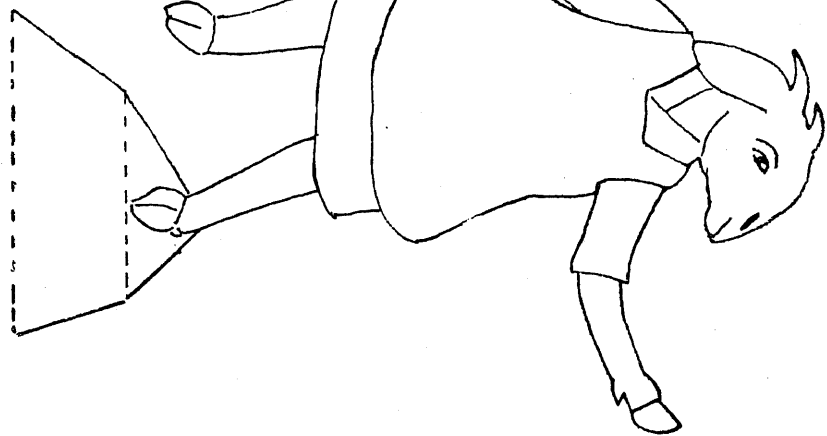
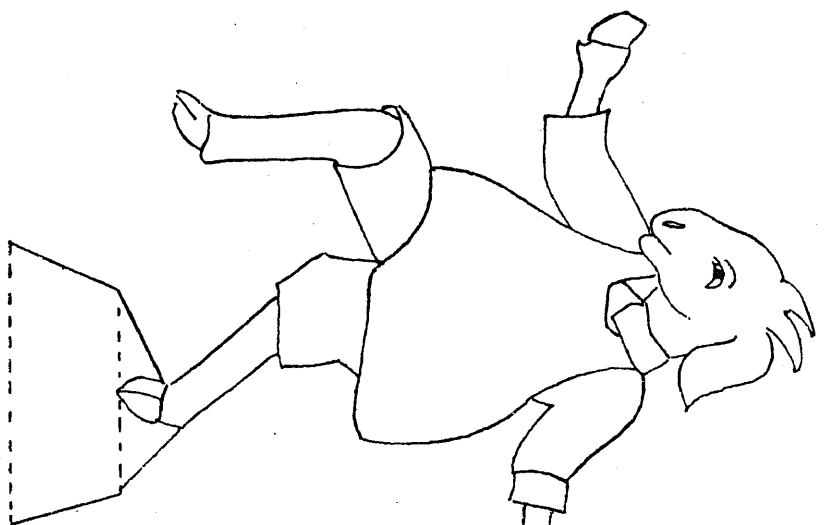
羊 山 親

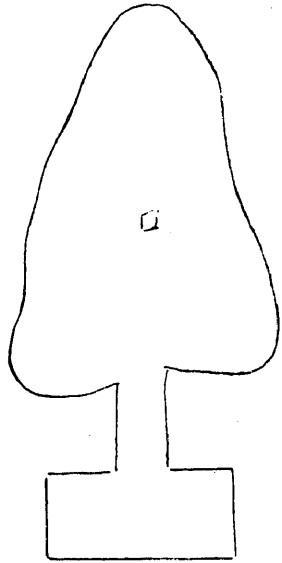
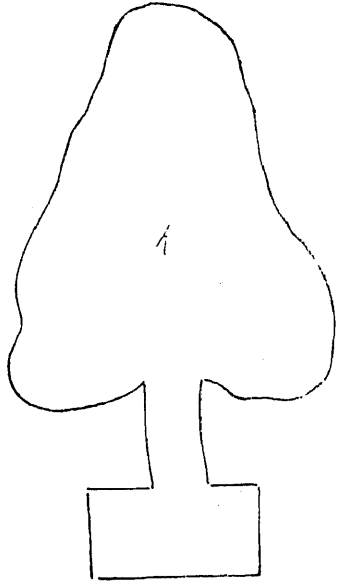
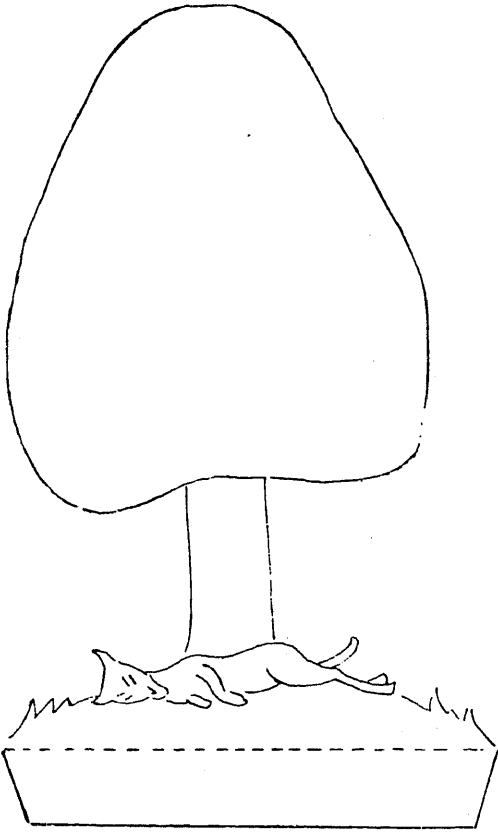
羊山子，匹二

羊山子，匹二

羊山子，匹二







が

「今歸つた、ちや！ 戸があいてゐる、誰もいない、さあ大變」と叫びました。時計の蔭にゐる子山羊がとび出して「お母さん」ととびつきました。「おちやあや一體どうしたの」「お母さん　こわかつた。みんな食べられてしまつた」「たべられてしまつたつてたべたその狼はどちらへ行つた早く早く」

二匹は家をとび出しました。走つて向ふの方へいつて見ますと、狼は大きな腹をして木の下でねむつて居りました。「あそこに居る、早く鋏鋏をうちから鋏をもつてきて、狼のねてゐる側にそつと參りました。そしてお腹にさはつて見ると山羊の子供がうごいて居るのがわかります。お母さんの山羊はそつとお腹の皮をはさみで剪りましたら、のまれた山羊の子供達がビヨビヨビヨいと飛び出しました。そして「お母さん」と云つてとびつきました。お母さんは、大變喜んで、狼が目を覺さない中にと急いでおうちへ歸りました。

◇
このお話のうちのめでたくお母さん山羊が七匹の子供をつれてお家へ歸るところです。

お母さん山羊　一枚

子山羊が二匹手をつないでゐるのが　三枚

右向きの子供山羊が一匹　一枚

狼のねてゐる木が　一本

イロの印のある木が交せて五本。

これだけが一組になつてゐます。それ／＼謄寫版にすつたものを幼児の好む色にぬらせます。ぬつた後にきりぬかせて臺紙に適當にはらせます。

畫用紙四ツ切大の臺紙に背景を簡單にかかせて森の線をさらせて點線のところより折ります。共同作業としてぬる人、きる人、背景を畫く人と數人がよつて作るのも一つの方法でありますし、今日はぬる丈、明日は切るだけ、その次の日は背景を畫いてはりつけるといふ様に一人の幼児がつけ仕事をして面白いでせう。

童話

赤い浮袋

小野 ぶ さ

◇……◇

富美子ちゃんはまだ生れて一度も海を見たことがありません。このあひだ海の近くのちばさまから手紙が来て「海にいらつしやい、面白いところですよ、きれいな——浮袋で泳いだら、どんなに愉快でせうか。子供が大勢泳いでゐます」と書いてありました。

富美子ちゃんはそれを見て

「あゝ海が見たいなあ」

「海つてどんなに廣いのだらう。ちむかひのちばさんとこのお池の何倍位あるのだらう」

「浮き袋に乗つて廣い海の上を、ふわり〜と浮

いて行つたらどんなにいい氣持だらう」

とそんな事ばかり考がへてゐました。けれど、お母さんがながいこと御病氣でとても海なんかつれては行つて頂だけません。富美子ちゃんはお母様のお薬をもらひに行つて歸りにはきつと、裏の小山にそをつとのぼつて、いつかちばいさんが海はあちらの方だよ、と教へて下すつた方に向つて「海は見えないかなあ」と何度ものび上つて見てゐました。

うちちに歸つてお母様にお薬を上げては、神様にそつとちねがひをしました。

「どうぞお母様の御病氣がよくなつて、そして海

に行ける様になさつて下さい」

そして一所懸命に御かいほうをして上げました。そのためにだんく、お母様の御病氣もよくなつて今日は久しぶりに、おいしい〜とおつしやつて、御飯も、たくさんおあがりになりました。

富美子ちゃんはうれしくつて〜

「ね、お母さん、御病氣がよくなつたら海へつれて行つて下さいね」

お母さんはニコニコなさつて

「え、つれて行つてあげますとも、浮袋も買つてあげませう」

富美子ちゃんはどんどんに喜んだことでせう。

「神様お母さんを早くよくして下さい」

と、御願ひをしてやすみました。

◇……◇

富美子ちゃんが、びつくりしたやうにお目を

さました。そして

「富美子ちゃん。富美子ちゃん」

とやさしい聲のする方を見ますと、そこには今まで一度も見た事の無いほど美しい着物を着た、きれいな〜お姫さまがニコ〜笑つて立つていらつしやいました。富美子ちゃんは

「ママ……」

と言つたまゝ、びつくりしてゐますと、お姫さまは

「富美子ちゃん、さあいらつしやい。あなたのすきな〜海につれていつてあげますから、そしてほら、浮袋も持つて來ましたからね。あなたのすきなほど洋げますよ、さあそんなにびつくりしないで、いつしよにいらつしやい。ね……」

と言つて、赤と白できれいに模様の出來てゐる浮袋を見せました。富美子ちゃんはもう、うれしくつて〜、いきなりお床の中からとびだして來ました。

「まあ、おばさま、これ私に下さるんですか、そしてあの、海にもつれて行つて下さいますの」

「ええ、ええ、さあいらつしやい」

富美子ちゃんはうれしくつて／＼小さい胸はもうはちきれさうになりました。

表に出て見ますと、まあどうぞせう、きれいな／＼お馬車がちゃんと待つてゐました。

「富美子ちゃん、さあおのんなさい。このお馬車はね、とても／＼早くつて、一寸の間に海にゆきますよ」

二人はやはらかい羽のはいにつてゐるお座蒲團の上に腰をかけました。お馬車は朝露のキラ／＼光る野原を音も立てずに走ります。しばらくゆきますと廣い／＼お花畑を通りました。

「あら、おばさま、あんなきれいな花が咲いてゐます、あれ、蝶々が舞つてゐますよ」

「あらまあ赤い可愛い花」

「あら……あら……」

と夢中になつてお馬車の窓からながめてゐました。お姫様はたえずニコ／＼笑つていらつしやいました。

◇……◇

「富美子さん、ほら、海が見えるぞせう。ね、ほら、あそこに」

お姫さまの指の向ふの方に青いきれいな海が静かに光つて見えます。

「あら、あの白いものはなんでせう」

「あれはね、お舟」

「お舟、まあ、私の繪本のお舟よりずっとずっときれいですね」

いつの間にかお馬車は海に着きました。見ると富美子ちゃん目の前には富美子ちゃんと丁度おなじ位の可愛い／＼女の子がみんな赤と白の浮き袋を持つて富美子ちゃんを待つてゐてくれました。

そしてみんなお姫様におじぎをしました。

「やつと富美子ちゃんをおつれしましたよ。さあみんなで、およいでいらつしやい」

お姫様はきれいなお舟にのつて、子供たちの行く方についていらつしやいます。

海の上に花が咲いた様に美しい浮袋にのつた子供が大ぜい、波にゆられて、フワリ〜と浮いてゐます。

富美子さんは

「まあすてきよ」あらあの鳥は、かもめかしら」

白いかもめが、富美子ちゃん達のまわりをうれしさにとんでゐます。浮袋にのつてふわり〜とゆられてながら富美子ちゃんは、よい氣持でずん〜泳いでゐましたが、ふと氣がつかますと、今までのたお友達もお姫様もだあれもゐなくなつてゐます。富美子ちゃんは、急にさびしくなつて

「あはれや。あはれや」

と呼んでみましたが、やさしいお姫様はそこらにはいらつしやいませんでした。富美子さんは悲しくなつて思はず「お母さん、お母さん」と一所懸命大きい聲で泣きました。

「はあい、どうしたの、富美子ちゃん、お母さんですよ」

ふときがついて見ますと、富美子ちゃんの枕元にお母様がニコ〜笑つていらつしやいました。

富美子さんは、

「あら、今のは夢ね」

それでも、何だか不思議さうにお部屋を、見まわしてゐました。お母様はたゞだまつて笑つていらつしやいました。

富美子さんは「お母さんと御一しよであつたらあの夢がどんなに面白かつたらう」と思ひました。「おはり」——昭和四年八月二十日作——

サルビヤ

もはや極暑も通りこして朝夕はずつと涼ぎよくなりました。土いじりするにも汗まみれにならなくてすむやうになりました。

本月はなか／＼多忙な時期なのであります。即ちこれまでなほざりがちにしてありました夏草の後始末、ついで秋蒔物の播種、秋植球根類の植込等種々あります。

しかし是等につきましては以前にあらまし申し上げて居りますからこの度は略すことに致しまして今回は前月末頃から咲き初めて居りますサルビヤに就て少し申し上げます。

このサルビヤの原産地はブラジルであります

大岩金

この屬は五百種もありますが最も普通に観賞用として栽培されて居りますのはサ・スプレнденスといふ種類であります。それで元來は永年草であります但我國では多くは一年草として扱つて居ります。

草丈は八〇糎——一〇〇糎で莖はやゝ木質化し葉は卵形で先端が尖り鋸齒を有して居ります。花は大形で莖の先端に總狀花序をしてついで居ります。萼も花瓣も眞赤でありまして花は朝開けば夕方には花瓣は落ちるのでありますが赤い萼のみは残つて居りますので一見長く開花してゐる感があります。

一、播種

三月下旬乃至四月上旬の頃に播種するのでありますその方法は種子の大きさもさほど小さい方でもありませんから極普通の撒播でよいのであります。が是は霜には比較的弱い方でありますから發芽後大霜などの降ることがありますと折角の二葉も一夜にして枯れてしまふことがありますからこの點に注意して時期は多少おくれ加減に場所は鉢又は箱蒔にして容易に霜除又は持運びの出来るやうにした方がよいのであります。

二、移植

他の草花よりも回数を多くして苗を丈夫に育て又數回の摘心によつて枝打を多く致します時は鉢植としても花壇植としましても下枝が上らないで見ばえのよいものになります。即ち二葉に續いて本葉が二三枚も出ましたならば先づ第一回の移植を致しますかくて本葉が五六枚も出ましたならば

その二三枚を残して先端を切り去ります。かくて充分の施肥(肥油粕の腐汁等)を致しましてどんくと莖葉の繁茂と根の伸長とをはかります。このやうに致しまして上には葉腋から出ます芽が伸びて本葉四五枚にもなりましたならば二三枚を残しては摘み取つて又その葉腋から新たに芽の出るやうにし、下には充分に根が張つて鉢に一杯になつては來る大鉢に移植するといふやうにして數回はを繰返せば終には一株に二三十本からの枝がこんもりと出まして是が夏から晩秋の候にかけて眞赤にもえ出ました眺めはなか／＼美事であります。

三、用土

軟かくてあまり粘らないものの方がよいやうであります。そしてなるべく肥料分に富んだものの方がよいのであります。

四、肥料

一年草としては比較的生育期間が長い方でありますから基肥として堆肥の如きを入れ尙時には液肥を追肥としてやらなければなりません。その種類は油粕の外下肥、鶏糞の腐汁等いづれでも結構でありまして回数は一週一度位の割合にすればよいのであります。

五、その他の管理

サルビヤは元來日光には充分浴する事を好むものでありますがあまり乾きすぎます場所に植えたり鉢も水をさらしますと花付きがわるく又草勢もずつと衰えて參りますからこの點に注意せねばなりません。

六、採種

開花期間が長い丈に種子も一度にまとめてとることは困難でありましてその適期をみて採種しなければなりません。又他の多くの草花は自然に落下した種子によりましてその發芽に適當な時期に

なりますとあちらこちらに點々と芽を出すものであります。霜に弱いサルビヤは冬の間に枯死するのであります。霜が落ちた種子では到底發芽は見られないのであります。かかる理で採種は必ずしておかなければならないのであります。次に採種に困難な點は前申しました通り花瓣は落ちても萼が残り一見花あるが如くにみえますのでいつ種子が完熟したか容易に見分け難いのであります。それに又完熟した種子は長くとどまる事なく容易に地に落ちるのであります。それ故既に萼が多少枯れかゝつた感じのするやうな色になりました中をのぞき見ます時はその多くはもはや種子はなくなつて居るのであります。それ故未だ色は赤いうちから暇ある毎に一つ／＼中を調べましてやゝ黒色を帯びました種子が出来て居りましたならば軽くその萼の本を振つてみます。かく致しますれば種子は手中に落ちます。普通には一つの花から三個位

の種子が得られます。かゝる種子は初秋から晩秋にかけて絶えず收穫出来るのであります。がなかく手敷のかゝる仕事であります。手間を省くには略花が終りました頃になりましたならば新聞紙上又はバケツの中に枝先を刈つてこの中に振り落せばよいのであります。

七、挿木法

播種に依る外挿木法に依つて繁殖させる事も出来るのであります。即ち秋に新梢を砂床に挿し之をフリューム又は温室内に入れておきますれば翌春には早く開花をみる事が出来ます。

又八重咲で種子の出来難いものなどはこの方法に依らなければ子孫は絶えるわけでありませう。

又場所の都合に依りましては秋に挿木せず、秋に開花しましたものの地上部二三節を残して切り去りその残株の鉢を前同様フリューム又は温室中にて充分保温し翌春になつてそれから出た新芽を挿

木する方法もあるのであります。

岸邊福雄氏の再渡歐

童話のおぢさん、岸邊福雄先生が九月十五日東京發、シベリア經由で、二度目の歐米行脚に出かけられました。氏の經營される女學校の教子達の、恩師を海外旅行に欲くりたいといふるはしい計畫、十年前よりの積立金で、「教育勅語御下賜記念事業として」の教育視察、それに東京市から兒童教育視察の囑託をもうけられて、來春御歸朝ださうですが、御専門の童話家としてのおみやげが今から期待されます。

告 稟

定 規 文 注

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說
調査研究等の寄稿を歓迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字
下げること、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新
刊書、交換雜誌、入會手續、更に

本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切
左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日 本 幼 稚 園 協 會

一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵
券代用の場合には總て一割増）

一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七
二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せ
られたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特
に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封
に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御
送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ
ます。

定 價

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ月分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和五年九月十二日印刷納本
昭和五年九月十五日發行

幼兒の教育 第三十卷第九號

不 許 複 製
禁 轉 載

編輯兼發行者 堀 七 藏
東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五

印刷者 須 藤 紋 一
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

印刷所 京華社印刷所
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日 本 幼 稚 園 協 會
振替口座東京一七二六六番

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田與松に御申込下さい。

廣島文理科
大學教授
文學博士
久保良英
先生新著

兒童研究所紀要

卷十三

大挿圖定價
洋金三元
全裝洋金
一十二圓
冊頁拾五
錢八拾

教育的に先進國たる歐米諸國に於ては、既に將來國家の構成に重要な位置を占むべき兒童を心理的、生理學的に研究して純粹なる學理的立場から益々其効果を收めんと企て右施設巨額の國費を擲つて惜まざる今日獨り我邦に、該機關の絶無なるを慨し、久保博士等同好の士が私財を投じて設立せられたる本研究所の貴重なる研究の發表は、恒に最新智識として學界に權威、最新智識として學界に推獎せらるる。

三十卷內容目次

兒童の體型と性格	文學博士 久保良英
基本選定兒童群に於ける宗教意識の基礎的研究	文學博士 關寬定
死亡原因の相關的研究	文學士 松本順之
練習轉移の研究	文學士 千葉清治
吃音兒の研究	文學博士 久保良英
體力測定、附脚長及び扁平足の調査	文學士 小林一滋
自由畫による幼兒の精神發達測定	文學士 桐原葆見
適性検査法の實施及び檢討	文學士 安藤諡次郎
兒童社會生活の一側面に於ける觀察	文學士 青木誠四郎
低學年に於ける團體智能検査法	文學博士 久保良英

兒童研究所紀要

1234 合輯 定價九圓五拾錢 送料五拾四錢
567 合輯 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢
8910 合輯 定價拾圓五拾錢 送料五拾四錢

智能検査定用具
ホルル紙型箱入
一組參圓送料拾八錢

團體的智能検査用紙
BA式
大判全
定價各々

大判洋綴背皮天金
紙數千貳百頁餘
定價金十圓五拾錢
送料金五拾四錢

智能の査定が手軽に出来る。兒童研究所紀要の實際的研究唯一の用具。
久保先上

發行所 東京市牛込區中文字館書店 電話 振替 東京 八三三 四二五 二五

成城小學校訓導

奧野庄太郎先生著

兒童圖書館用書

折角子供の爲にかゝれたグリムやアンデルセンの童話等も其翻譯や翻案が難詰な爲結局大人の讀物となる事は誠に遺憾です童話は飽まで子供の知能、子供の情緒、子供の徳性を培ふ源泉たる筈です。本童話新選は徹頭徹尾、子供の爲に用意された讀物で、極く平易な文章と用字で、特に子供の讀物として適切な活字と組方を研究し、たとひ其一字一句にも子供を對象としての親切さが満ち溢れてゐます。小館は曩に世界著名の童話を紹介すべく學習室文庫を發刊し全國學校から多大の賞讃を得ましたが、本童話新選は右文庫中最も兒童に親炙せるもの數十篇宛を選び、優雅な装幀堅牢な美本として新たに提供します。何卒各小學校、兒童圖書館並に一般家庭の御必備を希ひます。

東西幼年童話新選

栴 櫻 菊 楓

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

東西童話新選

天 地 人 文

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

の の の の

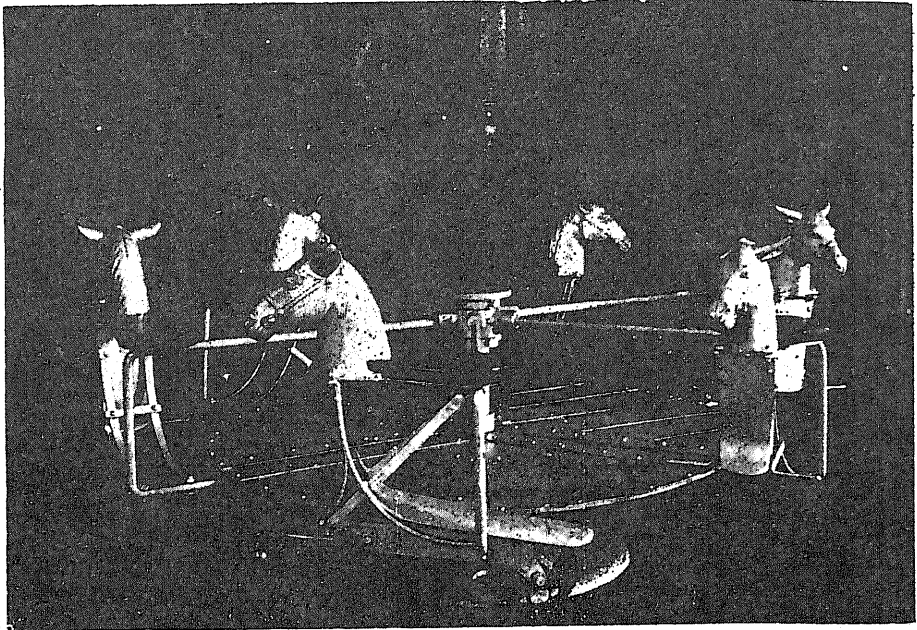
の の の の

の の の の

- 各書冊の定價と體裁
- 各卷 菊判全一冊宛
- 各卷 總クローヌ洋綴
- 各卷 紙數五百頁宛
- 各卷 挿畫四十葉
- 各卷 各卷彩色畫四葉
- 各卷 定價二圓宛
- 各卷 送料廿七錢宛

東京市牛込區 中野文館書店

電話三三八二七番



新 出 來 的 馬 車 遊 園 機

新 製 品

改 良 メ リ ー ・ ゴ ー ・ ラ ウ ン ド

六 人 乘 定 價 金 八 十 八 圓 也

全 部 鐵 製、 永 耐 久 性。

一 人 一 馬 の 首 を 附 け、

自 轉 車 の チ エ ー ン と 同 理 に て

一 人 が 踏 め ば 六 人 一 緒 に

自 動 的 に 回 轉 す る。

興 味、 實 益、 外 觀 共 に

比 類 な き 逸 品。

東 京、 神 田、 教 育 會 館 內

株 式 會 社 フ レ ー べ ー ル 館

定 價 三 十 五 錢

昭 和 四 年 五 月 十 五 日 第 三 種 郵 便 物 認 可
(毎 月 一 回 十 五 日 發 行)

昭 和 五 年 九 月 十 二 日 印 刷 納 本
一 行